

|平成29年度|
京都大学
一般入試学生募集要項

—京都大学の基本理念—

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多角的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、基本理念が定められ、教育の基本理念として以下のとおり定めています。

- 京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。
- 京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

—京都大学入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）—

【学士課程】

京都大学は、日本の文化、学術が育まれてきた京都の地に創設された国立の総合大学として、社会の各方面で活躍する人材を数多く養成してきました。創立から1世紀以上を経た21世紀の今日も、建学以来の「自由の学風」と学術の伝統を大切にしながら、教育、研究活動をおこなっています。

京都大学は、教育に関する基本理念として「対話を根幹とした自学自習」を掲げています。京都大学の目指す教育は、学生が教員から高度の知識や技術を習得しつつ、同時に周囲の多くの人々とともに研鑽を積みながら、主体的に学問を深めることができるように教え育てることです。なぜなら、自らの努力で得た知見こそが、次の学術展開につながる大きな力となるからです。このため、京都大学は、学生諸君に、大学に集う教職員、学生、留学生など多くの人々との交流を通じて、自ら学び、自ら幅広く課題を探求し、解決への道を切り拓く能力を養うことを期待するとともに、その努力を強く支援します。このような方針のもと、優れた学知を継承し創造的な精神を養い育てる教育を実践するため、自ら積極的に取り組む主体性をもった人を求めています。

京都大学は、その高度で独創的な研究により世界によく知られています。そうした研究は共通して、多様な世界観・自然観・人間観に基づき、自由な発想から生まれたものであると同時に、学問の基礎を大切に研究、ないし基礎そのものを極める研究であります。優れた研究は必ず確固たる基礎的学識の上に成り立っています。

京都大学が入学を希望する者に求めるものは、以下に掲げる基礎的な学力です。

1. 高等学校の教育課程の教科・科目の修得により培われる分析力と俯瞰力
2. 高等学校の教育課程の教科・科目で修得した内容を活用する力
3. 外国語運用能力を含むコミュニケーションに関する力

このような基礎的な学力があってはじめて、入学者は、京都大学が理念として掲げる「自学自習」の教育を通じ、自らの自由な発想を生かしたより高度な学びへ進むことが可能となります。

京都大学は、各学部の理念と教育目的に応じて、その必要とするところにしがたい、入学者選抜における教科・科目等を定めており、望ましい基礎的な学力を備え、京都大学の学風と理念を理解して、意欲と主体性をもって勉学に励むことのできる人を、国内外から広く受け入れます。

未来の京大生へ

創立119年を迎えた京都大学は日本を代表する総合大学として、10学部に加え、充実した大学院や全国一の多様性を誇る研究所群を擁しています。そして「対話を根幹とした自学自習」を重視し、創造の精神を育む学問の都として世界最高水準の大学教育を行っています。これまで累計で20万2千余名の卒業生を世に送り出し、多くの卒業生が学術分野のみならず、産業界、官界など様々な分野で活躍しています。

京都大学で学ぶ。このことはみなさんの人生においてなにものにもかえがたい貴重な経験となるはずです。みなさんは行政・政治・経済の中心から一定の距離をおく京都に暮らし、学生生活を謳歌することになります。世界都市・京都の内懐に抱かれ、千年以上続いた日本の文化や伝統を肌で感じつつ、それに安住することなく、果敢に革新する進取の精神を文化や学芸、さらには学生を大切にす京都の地で学ぶことになるのです。これまでの知識偏重の学びを卒業し、古典から現代先端技術にいたるまでの幅広い知識を身につけ、大局的にものを見、自由に発想できるようになるためには、旺盛な知識欲を満足させる優れた教育環境と学んだことを我が物とする沈潜の時が必要です。我々京都大学の教職員はみなさんにかげがえのない時間を過ごせる静謐な学問の場を提供します。

京都大学においては、総合大学の強みを生かし、各学部、大学院、研究所、センターにおいて人文学、社会科学、自然科学の各分野で様々な独創的な研究が日々なされています。そこでみられる本学の研究の多様性とユニークさは群を抜いています。京都大学においては1年生からの少人数ゼミ「ILASセミナー」を通じ、これらの独創的な研究を行っている研究者から最先端の研究の手ほどきを受けることができます。また、京都大学は、世界中の大学と国際交流協定を数多く結んでいる大学です。その利点を活かして、在学中に留学しやすい環境づくりをすすめています。カリキュラムにおいては、外国人研究者による集中講義や特別講義の更なる活用、外国の大学とのリアルタイムの双方向遠隔講義をさらに充実させていきます。

将来世界を舞台にして、地球社会の共存に貢献したいという高い志を持つみなさん。自由で知的刺激にあふれた大学、京都大学はみなさんを待っています。

大学は、社会や世界に通じる窓です。京都大学でぜひ多くの仲間を作り、教職員といっしょにその窓を開けて羽ばたいてください。



京都大学総長 山極 壽一

目 次

※法学部を除く特色入試については別途公表している「特色入試学生募集要項」をご覧ください。

1. 前期日程（一般入試）	
I 入学定員・募集方法等.....	3
II 出願資格.....	5
III 入学者選抜方法等.....	6
IV 出願手続.....	28
V 入試情報開示.....	32
VI 障害等のある入学志願者との事前相談について.....	33
VII 受験に関する注意事項等.....	34
VIII 合格者発表.....	36
IX 入学手続.....	36
X 追加合格.....	38
XI 個人情報の取り扱いについて.....	38
XII 学部・学科紹介.....	39
2. 法学部後期日程（特色入試）	
I 入学定員・募集方法等.....	49
II 出願資格.....	51
III 入学者選抜方法等.....	52
IV 出願手続.....	56
V 入試情報開示.....	60
VI 障害等のある入学志願者との事前相談について.....	61
VII 受験に関する注意事項等.....	62
VIII 合格者発表.....	64
IX 入学手続.....	64
X 追加合格.....	66
XI 個人情報の取り扱いについて.....	66
3. 一般項目	
I 京都大学の教養・共通教育について.....	69
II 過去3年間の入学試験結果の概要.....	70
III 修学案内.....	73
◎ 京都大学構内図.....	81
◎ 問い合わせ先.....	82

1. 前期日程（一般入試）

I 入学定員・募集方法等

1. 入学定員・募集人員

特色入試（法学部を除く）において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加えます。

学部・学科		募集人員 入学定員	募集区分		
			前期日程	後期日程	その他の選抜方法
総合人間学部		120	文系 62		特色入試：5人
			理系 53		
文学部		220	210		特色入試：10人
教育学部		60	文系 44		特色入試：6人
			理系 10		
法学部		330	310 <small>(外国学校出身者のための選考10人以内含む)</small>	20 <small>(後期日程の募集は特色入試として行う)</small>	外国学校出身者のための選考：10人以内
経済学部		240	文系 190 <small>(外国学校出身者のための選考10人以内含む)</small>		特色入試：25人 外国学校出身者のための選考：10人以内
			理系 25		
理学部		311	306		特色入試：5人
医学部	医学科	107	102		特色入試：5人
	人間健康科学科	100	70		【先端看護科学コース】 特色入試：20人 【先端リハビリテーション科学コース (理学療法学講座)】 特色入試：5人 【先端リハビリテーション科学コース (作業療法学講座)】 特色入試：5人
	計	207	172		
薬学部 ※1	薬科学科	50	47		【薬科学科】 特色入試：3人
	薬学科	30	30		
	計	80	77		
工学部	地球工学科	955	937 <small>(別表1のとおり)</small>		【地球工学科】 特色入試：3人 国際コースのための選考：30人以内 【電気電子工学科】 特色入試：5人 【情報学科】 特色入試：3人 【工業化学科】 特色入試：7人
	建築工学科				
	物理工学科				
	電気電子工学科				
	情報工学科				
農学部	資源生物科学科	300	282 <small>(別表2のとおり)</small>		【資源生物科学科】 特色入試：3人 【応用生命科学科】 特色入試：3人 【地域環境工学科】 特色入試：3人 【食料・環境経済学科】 特色入試：3人 【森林科学科】 特色入試：3人 【食品生物科学科】 特色入試：3人
	応用生命科学科				
	地域環境工学科				
	食料・環境経済学科				
	森林科学科				
食品生物科学科					
合計		2,823	2,678	20	

※1 薬科学科は4年制、薬学科は6年制です。

なお、工学部と農学部は、入学定員を学部として定め、別表1と別表2のとおり、受入学生数を目安として学科別に合格者を決定します。

別表1

学部・学科等	受入学生数(目安)	
工学部	地球工学科 <small>(国際コースのための選考30人以内含む)</small>	182
	建築工学科	80
	物理工学科	235
	電気電子工学科	125
	情報工学科	87
	工業化学科	228

工学部は学科を第2志望まで選択することができます。

別表2

学部・学科等	受入学生数(目安)	
農学部	資源生物科学科	91
	応用生命科学科	44
	地域環境工学科	34
	食料・環境経済学科	29
	森林科学科	54
	食品生物科学科	30

農学部は学科を第6志望まで選択することができます。

2. 試験実施方式・日程

- (1) 本学は、分離分割方式による前期・後期日程（特色入試）試験を実施します。
- (2) 志願者は、分離分割方式の「前期日程」の大学・学部等から1つ、「後期日程」の大学・学部等から1つの合計2つの大学・学部等に出願することができます。
- (3) 前期日程試験の大学・学部合格し、平成29年3月15日までに入学手続きを行った者は、後期日程試験を受験しても合格者となりません。
- (4) 本学も含め全ての国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学を除く。）の推薦入試又はAO入試合格者は、当該推薦入試又はAO入試を実施する大学・学部の定める入学辞退手続により入学の辞退を許可された場合を除いて、本学個別学力検査等を受験しても合格者となりません。

※ 独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学については、公立大学協会ホームページを参照のこと。（<http://www.kodaikyo.org/>）

(5) 主な日程

出願書類受理期間	平成29年1月23日（月）～2月1日（水）
第1段階選抜合格者発表日	2月8日（水）送付予定
試験実施日	2月25日（土）・26日（日）・27日（月） ※27日は医学部医学科の面接のみ実施
合格発表	3月10日（金）正午
入学手続	3月14日（火）午後5時 必着

※上記日程等については各項目の該当ページを確認のこと。

3. 募集方法及び合格者の決定方法等

- (1) 総合人間学部、教育学部、経済学部は、「文系」試験及び「理系」試験に分けて募集し、合格者を決定します。
- (2) 法学部は、「前期日程」試験及び「後期日程（特色入試）」試験に分けて募集し、合格者を決定します。
- (3) 医学部、薬学部は、学科別に募集し、合格者を決定します。
- (4) 工学部は、学部として募集しますが、受入学生数を目安として学科別に合格者を決定します。
なお、第1～第2志望まで学科を選択することができることとし、成績及び志望順位に基づき合格者を決定します。
- (5) 農学部は、学部として募集しますが、受入学生数を目安として学科別に合格者を決定します。
なお、第1～第6志望まで学科を選択することができることとし、成績及び志望順位に基づき合格者を決定します。

II 出願資格

次のいずれかに該当する者で、平成29年度大学入試センター試験において受験を課す教科・科目（8～27ページに記載した各学部の「大学入試センター試験の利用教科・科目名」欄参照）のすべてを受験した者。

1. 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び平成29年3月卒業見込みの者
2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成29年3月修了見込みの者
3. 外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び平成29年3月31日までに修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
4. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び平成29年3月31日までに修了見込みの者
5. 文部科学大臣が指定する専修学校の高等課程を文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成29年3月31日までに修了見込みの者
6. 文部科学大臣の指定した者（昭和23年文部省告示第47号—大学入学に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者の指定—）
7. 高等学校卒業程度認定試験又は大学入学資格検定（大検）に合格した者及び平成29年3月31日までに合格見込みの者で、平成29年3月31日までに18歳に達するもの
8. 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成29年3月31日までに18歳に達するもの（下記【個別入学資格審査の申請方法等】参照）

【個別入学資格審査の申請方法等】

上記の出願資格8. により出願を希望する者は、事前に個別の入学資格審査を申請してください。審査の結果、資格を認定された場合のみ出願が認められます。

なお、出願資格1.～7.により出願を希望する者は、入学資格審査を申請する必要はありません。

1. 入学資格認定の申請対象者

出願資格8. として申請可能な者は、学校教育法施行規則第150条第7号に該当する者で、外国人を対象に教育を行うことを目的として我が国に設置された教育施設において高等学校に対応する3年に相当する学習歴を有する又は有する見込みのものです。ただし、平成29年度大学入試センター試験を受験した者に限ります。

2. 申請書類

- ① 入学資格認定申請書（本学所定の様式）
- ② 出身教育施設の修了（又は修了見込み）証明書
- ③ 出身教育施設の規則等
- ④ 出身教育施設のカリキュラム（修業年限、授業時間数、授業科目、必要単位数等が明記されたもの）
- ⑤ 返信用封筒〔長形3号封筒に申請者の住所・氏名を明記して、792円分（書留速達料金）の切手貼付。〕

3. 申請受理期間

平成29年1月16日（月）から1月18日（水）まで。

上記期間内に「書留速達郵便」にて「入学資格認定申請書類在中」と朱書き、郵送（期限内必着）してください。なお、提出された書類は一切返却しません。

4. 審査方法

申請者から提出された入学資格認定申請書及び出身教育施設の修了（又は修了見込み）証明書等に基づき審査します。

5. 認定基準

認定の基準は、専修学校高等課程の修了者に入学資格を認める基準を準用し、各教科の修得単位数等について、原則として次に掲げる条件を満たした教育を行う施設で当該教育を修了していること、又は修了する見込みであること。※単位については、1単位時間を50分とする。

- (1) 修了に必要な総単位時間数は、2,590単位時間以上とする。
- (2) 修了に必要な普通教科の総単位時間数は、420単位時間以上とする。
普通教科は国語（日本語）、地理歴史、公民、数学、理科、外国語とする。
- (3) 前項の教科以外の履修が、前項の教科と同様の成果が期待できる場合においては、その教科の履修をもって、前項の教科の一部又は全部に替えることができる。

6. 認定について

審査の結果、入学資格認定者には認定書を交付します。認定書を一度交付された場合、再度申請する必要はありません。

7. 提出先・照会先 ※ 申請予定者は申請前に必ず連絡してください。

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学教育推進・学生支援部入試企画課 TEL：075-753-2521

Ⅲ 入学者選抜方法等

入学者選抜は、大学入試センター試験の成績、一般入試個別学力検査（以下、「個別学力検査」と省略）等の成績及び調査書を資料とし、各学部の判断基準により総合して判定します。

学力検査等の成績判定は、大学入試センター試験の成績を8～27ページに記載した各学部の「大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等」欄の配点に換算したうえ、これと個別学力検査等の成績とを総合して行います。

なお、大学入試センター試験の成績の複数年度利用は行いません。

1. 2段階選抜

入学志願者が募集人員を大幅に上回り、個別学力検査等を適切に実施することが困難な場合には、大学入試センター試験の成績等により第1段階選抜を行うことがあります。その場合は、各学部において8～27ページに記載した各学部の「個別学力検査等」欄の「第1段階選抜」に掲載の方法により、それぞれ第1段階選抜合格者を決定し、個別学力検査等を行います。

【第1段階選抜合格者発表】

第1段階選抜結果の発表は、掲示にはよらず、次の方法により志願者に通知します。

(1) 第1段階選抜を実施した場合は、その合格者には個別学力検査等の受験票を送付します。不合格者には不合格通知書を送付します。

第1段階選抜を実施しなかった場合は、志願者全員に受験票を送付します。

(2) 第1段階選抜結果の通知は、2月8日（水）頃に各学部から発送の予定です。なお、2月16日（木）を過ぎても到着しないときは、出願した学部の教務担当（82ページ参照）へ問い合わせてください。

2. 個別学力検査等実施場所

個別学力検査等は、吉田キャンパス（京都市左京区）で行う予定です。（場所等は81ページ参照。）ただし、志願者数により、上記以外の場所で行うこともあります。個別学力検査等の実施場所、経路の詳細は、受験票発送時にお知らせします。

※ 本学では、志願者に対する宿泊施設等のあっせんは行っておりません。

なお、京都大学生生活協同組合において宿泊案内を行っております。

ホームページ：<http://www.s-coop.net/>

3. 個別学力検査等実施期日・時間

個別学力検査等実施期日・時間は、次ページのとおりです。追試験は実施しません。

4. 入学者選抜の実施教科・科目等

入学者選抜の実施教科・科目等は、8～27ページのとおりです。

なお、大学入試センター試験及び個別学力検査の教科・科目名は、以下のように略しています。

国語→国、地理歴史→地歴、世界史B→世B、日本史B→日B、「倫理、政治・経済」→「倫、政経」、 数学→数、数学Ⅰ→数Ⅰ、数学Ⅱ→数Ⅱ、数学Ⅲ→数Ⅲ、数学A→数A、数学B→数B、 理科→理、物理基礎→物基、化学基礎→化基、生物基礎→生基、地学基礎→地基、 外国語→外、英語→英、ドイツ語→独、フランス語→仏、中国語→中、韓国語→韓

個別学力検査等実施期日・時間

学 部	日程等	2月25日(土)				2月26日(日)				2月27日(月)		3月13日(月)	
		教科等	時間	教科等	時間	教科等	時間	教科等	時間	教科等	時間	教科等	時間
総合人間 学 部	文系	国 語	9時30分 ～ 11時30分	数 学	13時30分 ～ 15時30分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	地理歴史	13時30分 ～ 15時00分				
	理系	国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	理 科	13時30分 ～ 16時30分				
文 学 部		国 語	9時30分 ～ 11時30分	数 学	13時30分 ～ 15時30分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	地理歴史	13時30分 ～ 15時00分				
教育学部	文系	国 語	9時30分 ～ 11時30分	数 学	13時30分 ～ 15時30分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	地理歴史	13時30分 ～ 15時00分				
	理系	国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	理 科 (1科目)	15時00分 ～ 16時30分				
法学部	前期	国 語	9時30分 ～ 11時30分	数 学	13時30分 ～ 15時30分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	地理歴史	13時30分 ～ 15時00分				
	後期												
経済学部	文系	国 語	9時30分 ～ 11時30分	数 学	13時30分 ～ 15時30分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	地理歴史	13時30分 ～ 15時00分				
	理系	国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語	9時30分 ～ 11時30分						
理 学 部		国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語 (英語のみ)	9時30分 ～ 11時30分	理 科	13時30分 ～ 16時30分				
医 学 部	医 学 科	国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	理 科	13時30分 ～ 16時30分	面 接	9時00分 ～ 17時30分		
	人間健康 科 学 科	国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語 (英語のみ)	9時30分 ～ 11時30分	理 科	13時30分 ～ 16時30分				
薬 学 部		国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語 (英語のみ)	9時30分 ～ 11時30分	理 科	13時30分 ～ 16時30分				
工 学 部		国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語 (英語のみ)	9時30分 ～ 11時30分	理 科	13時30分 ～ 16時30分				
農 学 部		国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	理 科	13時30分 ～ 16時30分				

【総合人間学部】

◇募集人員115人（前期日程：文系62人・理系53人）

※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加える。

学力検査等の区分	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							
	教科	科目名等	教科	科目名等	第1段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	配点合計
文系	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	約3.5倍	センター試験	*	50		*	100	*	150
	地歴	世B, 日B, 地理B, } から2	地歴	世B, 日B, 地理B から1									
	公民	「倫, 政経」	数	数I・数II・数A・数B									
理系	数	「数I・数A」, 「数II・数B」	外	英, 独, 仏, 中 から1	約3.5倍	個別学力検査	150	100		200		200	650
	理	物基, 化基, } から2 生基, 地基 (※注1 2. 参照)											
	外	英, 独, 仏, 中, 韓 から1 〔5教科8科目〕または 〔6教科8科目〕											
理系	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	約3.5倍	センター試験	*	100		*	*	*	100
	地歴	世B, 日B, 地理B, } から1	数	数I・数II・数III・数A・数B									
	公民	「倫, 政経」	理	物理, 化学, } から2 生物, 地学									
理系	数	「数I・数A」, 「数II・数B」	外	英, 独, 仏, 中 から1	約3.5倍	個別学力検査	150			200	200	150	700
	理	物理, 化学, } から2 生物, 地学											
	外	英, 独, 仏, 中, 韓 から1 〔5教科7科目〕											

〔注1〕「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 理系の「地理歴史, 公民」について, 2科目を受験したときは, 第1解答科目の成績をういます。
- 文系の「理科」について, 「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」(以下, 「基礎を付した科目」という。)のうちから2科目を選択するかわりに, 「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」のうちから2科目を選択することができます。その場合は, 合計得点(200点満点)を「基礎を付した科目」の合計得点と同じ100点満点に換算します。
- 英語のリスニングの成績については, 以下のとおり利用します。
英語250点満点(筆記200点満点, リスニング50点満点)を第1段階選抜においては200点満点に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は, リスニングの得点を0点として取り扱います。
なお, ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語及びリスニング免除者は筆記200点満点で第1段階選抜を行います。

〔注2〕「個別学力検査等」について

- 「地理歴史」について
大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。

2. 「数学」について

(1) 個別学力検査実施科目

文系：「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学A」、「数学B」の4科目を併せて「数学」として出題します。

理系：「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。

(2) 出題範囲

「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。

3. 「理科」について

(1) 大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。

(2) 物理：「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。

(3) 化学：「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。

(4) 生物：「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。

(5) 地学：「地学基礎」と「地学」を併せた範囲から出題します。

4. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

5. 第1段階選抜について

入学志願者が各選抜区分の募集人員に対して記載する倍率を上回った場合は、各選抜区分の大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により、第1段階選抜を行うことがあります。

(注3) 「大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等」について

大学入試センター試験で課す*印の付いた教科の得点は、他の教科と併せて第1段階選抜のための得点対象としますが、学力検査等の得点対象としません。

【文学部】

◇募集人員210人（前期日程：210人）

※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加える。

大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							
教科	科目名等	教科	科目名等	第1段階 選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	配点 合計
国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	約 3.5倍	センター試験	50	50		50	50	50	250
地歴	世B, 日B, 地理B, } から2	地歴	世B, 日B, 地理B から1									
公民	「倫, 政経」 } から2	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B		個別学力検査	150	100		100		150	500
数	「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」	外	英, 独, 仏, 中 から1									
理	物基, 化基, } から2				計	200	150		150	50	200	750
外	生基, 地基 } から2 (※注1 1.参照)											
	英, 独, 仏, 中, 韓 から1 (5教科8科目) または (6教科8科目)											

〔注1〕「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 「理科」について、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」（以下、「基礎を付した科目」という。）のうちから2科目を選択するかわりに、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」のうちから2科目を選択することができます。その場合は、合計得点（200点満点）を「基礎を付した科目」の合計得点と同じ100点満点に換算します。
- 英語のリスニングの成績については、以下のとおり利用します。
英語 250点満点（筆記 200点満点、リスニング 50点満点）を第1段階選抜においては200点満点に換算して利用し、学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は、リスニングの得点を0点として取り扱います。
なお、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語及びリスニング免除者は筆記 200点満点で第1段階選抜を行い、学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

〔注2〕「個別学力検査等」について

- 「地理歴史」について
大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。
- 「数学」について
 - 個別学力検査実施科目
「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学A」、「数学B」の4科目を併せて「数学」として出題します。
 - 出題範囲
「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。

3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

4. 第1段階選抜について

入学志願者が募集人員に対して記載する倍率を上回った場合は、大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により、第1段階選抜を行うことがあります。

【教育学部】

◇募集人員54人（前期日程：文系44人・理系10人）

※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加える。

学力検査等の区分	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							
	教科	科目名等	教科	科目名等	第1段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	配点合計
文系	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	約3.5倍	センター試験	50	50	50	50	50	50	250
	地歴	世B, 日B, 地理B, } から2	地歴	世B, 日B, 地理B から1									
	公民	「倫, 政経」	数	数I・数II・数A・数B									
理系	数	「数I・数A」, 「数II・数B」	外	英, 独, 仏, 中 から1	約3.5倍	個別学力検査	200	100		150		200	650
	理	物基, 化基, } から2 生基, 地基 (※注1 2参照)											
	外	英, 独, 仏, 中, 韓 から1 〔5教科8科目〕または〔6教科8科目〕											
理系	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	約3.5倍	センター試験	50	50	50	50	50	50	250
	地歴	世B, 日B, 地理B, } から1	数	数I・数II・数III・数A・数B									
	公民	「倫, 政経」	理	物理, 化学, } から1 生物, 地学									
理系	数	「数I・数A」, 「数II・数B」	外	英, 独, 仏, 中 から1	約3.5倍	個別学力検査	150			200	100	200	650
	理	物理, 化学, } から2 生物, 地学											
	外	英, 独, 仏, 中, 韓 から1 〔5教科7科目〕											

〔注1〕「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 理系の「地理歴史, 公民」について, 2科目を受験したときは, 第1解答科目の成績を用います。
- 文系の「理科」について, 「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」(以下, 「基礎を付した科目」という。)のうちから2科目を選択するかわりに, 「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」のうちから2科目を選択することができます。その場合は, 合計得点(200点満点)を「基礎を付した科目」の合計得点と同じ100点満点に換算します。
- 英語のリスニングの成績については, 以下のとおり利用します。
英語 250点満点(筆記 200点満点, リスニング 50点満点)を第1段階選抜においては200点満点に換算して利用し, 学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は, リスニングの得点を0点として取り扱います。
なお, ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語及びリスニング免除者は筆記 200点満点で第1段階選抜を行い, 学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

〔注2〕「個別学力検査等」について

- 「地理歴史」について
大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。

2. 「数学」について

(1) 個別学力検査実施科目

文系：「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学A」、「数学B」の4科目を併せて「数学」として出題します。

理系：「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。

(2) 出題範囲

「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。

3. 「理科」について

(1) 大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。

(2) 物理：「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。

(3) 化学：「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。

(4) 生物：「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。

(5) 地学：「地学基礎」と「地学」を併せた範囲から出題します。

4. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

5. 第1段階選抜について

入学志願者が各選抜区分の募集人員に対して記載する倍率を上回った場合は、各選抜区分の大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により、第1段階選抜を行うことがあります。

【法学部】

◇入学定員330人（募集人員 前期日程 310人（外国学校出身者のための選考入学者10人以内を含む）

後期日程（特色入試）20人）

※法学部は「前期日程」試験及び「後期日程（特色入試）」試験に分けて募集します。

※「後期日程（特色入試）」試験については54～55ページ参照。

募集区分	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							
	教科	科目名等	教科	科目名等	第1段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	配点合計
前期	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	前期募集人員の約3.5倍	センター試験	(200)	(200)		(200)	(100)	(200)	270(900)
	地歴	世B, 日B, 地理B, } から2	地歴	世B, 日B, 地理Bから1		個別学力検査	150	100		150		150	550
	公民	「倫, 政経」 } から2 (※注1 1参照)	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B		計							
	数	「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」	外	英, 独, 仏, 中から1									
理	物基, 化基, } から2 生基, 地基 (※注1 2参照)											820	
外	英, 独, 仏, 中, 韓 から1 (5教科8科目) または (6教科8科目)												

※法学部の試験成績は、大学入試センター試験の成績（合計の900点満点を270点満点に換算）と個別学力検査の成績（550点満点）とを総合（820点満点）して算出します。

（注1）「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 「地理歴史, 公民」について、「世界史B」と「日本史B」のうちの少なくとも1科目が含まれるように、2科目を選択してください。
- 「理科」について、「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」（以下、「基礎を付した科目」という。）のうちから2科目を選択するかわりに、「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」のうちから2科目を選択することができます。その場合は、合計得点（200点満点）を「基礎を付した科目」の合計得点と同じ100点満点に換算します。
- 英語のリスニングの成績については、以下のとおり利用します。
英語 250点満点（筆記 200点満点, リスニング 50点満点）を第1段階選抜においては200点満点に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は、リスニングの得点を0点として取り扱います。
なお、ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語及びリスニング免除者は筆記 200点満点で第1段階選抜を行います。

（注2）「個別学力検査等」について

- 「地理歴史」について
大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。
- 「数学」について
(1) 個別学力検査実施科目
「数学Ⅰ」, 「数学Ⅱ」, 「数学A」, 「数学B」の4科目を併せて「数学」として出題します。

(2) 出題範囲

「数学Ⅰ」,「数学Ⅱ」,「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」,「ベクトル」を出題範囲とします。

3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」,「コミュニケーション英語Ⅱ」,「コミュニケーション英語Ⅲ」,「英語表現Ⅰ」,「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

4. 第1段階選抜について

入学志願者が募集人員に対して記載する倍率を上回った場合は、大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により、第1段階選抜を行うことがあります。

【経済学部】

◇募集人員215人（前期日程：文系190人・理系25人・その他若干名）

※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加える。

※「文系」は外国学校出身者のための選考入学者10人以内を含む。

学力検査等の区分	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							
	教科	科目名等	教科	科目名等	第1段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	配点合計
文系	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	約3.5倍	センター試験	50	50		50	50	50	250
	地歴	世B, 日B, 地理B, } から2	地歴	世B, 日B, 地理B から1		個別学力検査	150	100		150		150	550
	公民	「倫, 政経」	数	数I・数II・数A・数B		計	200	150		200	50	200	800
理系	数	「数I・数A」, 「数II・数B」	外	英, 独, 仏, 中 から1	約3.5倍	センター試験	50	50		50	50	50	250
	理	物基, 化基, } から2 生基, 地基 (※注1 2参照)	数	数I・数II・数III・数A・数B		個別学力検査	150			300		200	650
	外	英, 独, 仏, 中, 韓 から1 (5教科8科目) または (6教科8科目)	外	英, 独, 仏, 中 から1		計	200	50		350	50	250	900

〔注1〕「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

1. 理系の「地理歴史, 公民」及び「理科」について、2科目を受験したときは、第1解答科目の成績を用います。
2. 文系の「理科」について、「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」(以下、「基礎を付した科目」という。)のうちから2科目を選択するかわりに、「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」のうちから2科目を選択することができます。その場合は、合計得点(200点満点)を「基礎を付した科目」の合計得点と同じ100点満点に換算します。
3. 英語のリスニングの成績については、以下のとおり利用します。
英語250点満点(筆記200点満点, リスニング50点満点)を第1段階選抜においては200点満点に換算して利用し、学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は、リスニングの得点を0点として取り扱います。
なお、ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語及びリスニング免除者は筆記200点満点で第1段階選抜を行い、学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

〔注2〕「個別学力検査等」について

1. 「地理歴史」について

大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。

2. 「数学」について

(1) 個別学力検査実施科目

文系：「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学A」、「数学B」の4科目を併せて「数学」として出題します。

理系：「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。

(2) 出題範囲

「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。

3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

4. 第1段階選抜について

入学志願者が各選抜区分の募集人員に対して記載する倍率を上回った場合は、各選抜区分の大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により、第1段階選抜を行うことがあります。

【理学部】

◇募集人員306人（前期日程：306人）

※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加える。

大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							
教科	科目名等	教科	科目名等	第1段階 選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	配点 合計
国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	センター試験 の得点が 630点以上 (※注2 4参照)	センター試験	50	25		50	50	50	225
地歴	世B, 日B, 地理B, } から1	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B		個別学力検査	150			300	300	225	975
公民	「倫, 政経」 } から1	理	物理, 化学, } から2		計	200	25		350	350	275	1200
数	「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」	外	生物, 地学									
理	物理, 化学, } から2	英	英									
外	英											
〔5教科7科目〕												

〔注1〕「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 「地理歴史, 公民」について, 2科目を受験したときは, 第1解答科目の成績を用います。
- 英語のリスニングの成績については, 以下のとおり利用します。
英語 250点満点(筆記 200点満点, リスニング 50点満点)を第1段階選抜においては 200点満点に換算して利用し, 学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は, リスニングの得点を0点として取り扱います。
なお, リスニング免除者は筆記 200点満点で第1段階選抜を行い, 学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

〔注2〕「個別学力検査等」について

- 「数学」について
 - 個別学力検査実施科目
「数学Ⅰ」, 「数学Ⅱ」, 「数学Ⅲ」, 「数学A」, 「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。
 - 出題範囲
「数学Ⅰ」, 「数学Ⅱ」, 「数学Ⅲ」, 「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」, 「ベクトル」を出題範囲とします。
- 「理科」について
 - 大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。
 - 物理: 「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。
 - 化学: 「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。
 - 生物: 「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。
 - 地学: 「地学基礎」と「地学」を併せた範囲から出題します。

3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

4. 第1段階選抜について

利用する大学入試センター試験5教科7科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計が900点満点中630点以上の者を第1段階選抜合格者とします。

【医学部】

◇募集人員172人（前期日程：医学科102人，人間健康科学科 70人）

※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には，残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加える。

学科名	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等								
	教科	科目名等	教科等	科目名等	第1段階 選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	面接	配点 合計
医学科	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	※注2 5.(1) 参照	センター試験	50	50	50	50	50	50		250
	地歴	世B, 日B, 地理B } から1	数	数I・数II・数III・数A・数B										
	公民	「倫, 政経」 } から1	理	物理, 化学, 生物 から2										
	数	「数I・数A」, 「数II・数B」	外	英, 独, 仏, 中 から1		個別学力検査	150			250	300	300	※注2 4参照	1000
	理	物理, 化学, 生物 から2	その他	面接(※注2 4.参照)		計	200	50	300	350	350		※注2 4参照	1250
	外	英, 独, 仏, 中, 韓 から1 〔5教科7科目〕												
人間健康科学科	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	学科募集人員の 約3.5倍	センター試験	50	50	50	50	50	50		250
	地歴	世B, 日B, 地理B, } から1	数	数I・数II・数III・数A・数B										
	公民	「倫, 政経」 } から1	理	物理, 化学, 生物 から2										
	数	「数I・数A」, 「数II・数B」	外	英		個別学力検査	150			200	200	200		750
	理	物理, 化学, 生物 から2				計	200	50	250	250	250			1000
	外	英, 独, 仏, 中, 韓 から1 〔5教科7科目〕												

〔注1〕「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 「地理歴史，公民」について，2科目を受験したときは，第1解答科目の成績を用います。
- 英語のリスニングの成績については，以下のとおり利用します。
英語 250点満点（筆記 200点満点，リスニング 50点満点）を第1段階選抜においては200点満点に換算して利用し，学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は，リスニングの得点を0点として取り扱います。
なお，ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語及びリスニング免除者は筆記 200点満点で第1段階選抜を行い，学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

〔注2〕「個別学力検査等」について

- 「数学」について
 - 個別学力検査実施科目
「数学I」, 「数学II」, 「数学III」, 「数学A」, 「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。
 - 出題範囲
「数学I」, 「数学II」, 「数学III」, 「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」, 「ベクトル」を出題範囲とします。

2. 「理科」について

(1) 大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。

(2) 物理：「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。

(3) 化学：「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。

(4) 生物：「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。

3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

4. 「面接」について

医学科：面接試験では、「医学部が望む学生像」（【学部・学科紹介】参照）に記載されている医師・医学研究者としての適性・人間性などについて評価を行い、学科試験の成績と総合して合否を判定します。

従って、学科試験の成績の如何にかかわらず不合格となることがあります。

調査書は、面接の参考資料にします。

高等学校卒業後5年以上で調査書の記載がないもの、記載内容が不明確なもの、あるいは、疑義のあるものなどは、別途指定した書類の提出を卒業学校等へ依頼することがあります。

また、面接の参考資料とするため、個別学力検査受験者全員から、履歴書・志望理由などを記載した書類（受験票送付時に同封する本学科所定用紙）の提出を求めます。

5. 第1段階選抜について

(1) 医学科は、利用する大学入試センター試験5教科7科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計が900点満点中630点以上の者のうちから、募集人員の約3倍までの者を総得点の順位に従って第1段階選抜の合格者とします。

(2) 人間健康科学科は、入学志願者が募集人員に対して記載する倍率を上回った場合は、大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により、第1段階選抜を行うことがあります。

【薬学部】

◇募集人員77人（前期日程：薬科学科47人・その他若干名、薬学科30人）

※特色入試において最終的な入学手続き者が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加える。

学科名	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							
	教科	科目名等	教科	科目名等	第1段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	配点合計
薬科学科	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	各学科ごとの募集人員の約3.5倍	センター試験	50	50	50	50	50	50	250
	地歴	世B、日B、地理B、 公民「倫、政経」	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B									
薬学科	数	「数Ⅰ・数A」、 「数Ⅱ・数B」	理	物理、化学、生物		個別学力検査	100			200	200	200	700
	理	物理、化学、 生物、地学	外	英	計	150	50		250	250	250	950	
	外	英、独、仏、中、韓 〔5教科7科目〕											

（注1）「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 「地理歴史、公民」について、2科目を受験したときは、第1解答科目の成績を用います。
- 英語のリスニングの成績については、以下のとおり利用します。
英語 250点満点（筆記 200点満点、リスニング 50点満点）を第1段階選抜においては200点満点に換算して利用し、学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は、リスニングの得点を0点として取り扱います。
なお、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語及びリスニング免除者は筆記 200点満点で第1段階選抜を行い、学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

（注2）「個別学力検査等」について

- 「数学」について
 - 個別学力検査実施科目
「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。
 - 出題範囲
「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。
- 「理科」について
 - 大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。
 - 物理：「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。
 - 化学：「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。
 - 生物：「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。

3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

4. 第1段階選抜について

入学志願者が各選抜区分の募集人員に対して記載する倍率を上回った場合は、各選抜区分の大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により、第1段階選抜を行うことがあります。

【工学部】

- ◇募集人員937人（前期日程：地球工学科182人，建築学科80人，物理工学科235人，電気電子工学科125人，情報学科87人，工業化学科228人，その他若干名）
 ※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には，残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加える。
 ※地球工学科は，外国人留学生を対象とした国際コースのための選考入学者30人以内を含む。

	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							
	教科	科目名等	教科	科目名等	第1段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	配点合計
全 学 科 共 通	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	学部募集人員の約3.0倍	センター試験	50	100		*	*	50	200
	地歴	世B, 日B, 地理B, } から1	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B									
	公民	「倫, 政経」	理	物理		個別学力検査	100			250	250	200	800
	数	「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」	外	化学									
	理	物理（必ず選択すること）		英									
	外	化学, 生物 から1											
		英, 独, 仏, 中, 韓 から1				計	150	100		250	250	250	1000
		〔5教科7科目〕											

（注1）「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 「地理歴史，公民」について，2科目を受験したときは，第1解答科目の成績を用います。
- 英語のリスニングの成績については，以下のとおり利用します。
 英語 250点満点（筆記 200点満点，リスニング 50点満点）を第1段階選抜においては200点満点に換算して利用し，学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は，リスニングの得点を0点として取り扱います。
 なお，ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語及びリスニング免除者は筆記 200点満点で第1段階選抜を行い，学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

（注2）「個別学力検査等」について

- 「数学」について
 - 個別学力検査実施科目
 「数学Ⅰ」, 「数学Ⅱ」, 「数学Ⅲ」, 「数学A」, 「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。
 - 出題範囲
 「数学Ⅰ」, 「数学Ⅱ」, 「数学Ⅲ」, 「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」, 「ベクトル」を出題範囲とします。
- 「理科」について
 - 物理：「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。
 - 化学：「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。

3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

4. 第1段階選抜について

工学部全体の志願者が工学部募集人員の約3.0倍を上回った場合、大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により、工学部全体の志願者で第1段階選抜を行うことがあります。

5. その他

第1～第2志望まで学科を選択することができます。

〔注3〕「大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等」について

大学入試センター試験で課す＊印の付いた教科の得点は、他の教科と併せて第1段階選抜のための得点対象としますが、学力検査等の得点対象としません。

【農学部】

◇募集人員282人（前期日程：資源生物科学科91人，応用生命科学科44人，地域環境工学科34人，食料・環境経済学科29人，森林科学科54人，食品生物科学科30人，その他若干名）
 ※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には，残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加える。

	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							
	教科	科目名等	教科	科目名等	第1段階 選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	配点 合計
全 学 科 共 通	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	学部募集人員 の約3.5倍	センター試験	100	100		50	50	50	350
	地歴	世B, 日B, 地理B, } から1	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B									
	公民	「倫, 政経」 } から1	理	物理, 化学, } から2									
	数	「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」	外	生物, 地学 } から2		個別学力検査	100			200	200	200	700
	理	物理, 化学, } から2		英, 独, 仏, 中 から1		計	200	100		250	250	250	1050
	外	英, 独, 仏, 中, 韓 から1 〔5教科7科目〕											

（注1）「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 「地理歴史，公民」について，2科目を受験したときは，第1解答科目の成績を用います。
- 英語のリスニングの成績については，以下のとおり利用します。
 英語 250点満点（筆記 200点満点，リスニング 50点満点）を第1段階選抜においては200点満点に換算して利用し，学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は，リスニングの得点を0点として取り扱います。
 なお，ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語及びリスニング免除者は筆記 200点満点で第1段階選抜を行い，学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

（注2）「個別学力検査等」について

- 「数学」について
 - 個別学力検査実施科目
 「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」，「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。
 - 出題範囲
 「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」，「ベクトル」を出題範囲とします。
- 「理科」について
 - 大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。
 - 物理：「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。
 - 化学：「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。
 - 生物：「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。
 - 地学：「地学基礎」と「地学」を併せた範囲から出題します。

3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

4. 第1段階選抜について

農学部全体の志願者が農学部募集人員の約3.5倍を上回った場合、大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により、農学部全体の志願者で第1段階選抜を行うことがあります。

5. その他

第1～第6志望まで学科を選択することができます。

IV 出 願 手 続

出願手続は、出願期間内に「インターネット出願システムでの出願登録」「入学検定料納入」「必要書類の郵送」をすることにより完了します。不備のないよう注意してください。

1. 出願手順

(1) 事前準備

① インターネットに接続されたパソコン等の準備

ご家庭にない場合は、学校や図書館など自宅外のパソコンからも出願できます。

② プリンタの準備

インターネット出願システムの出願登録完了画面からダウンロードできる宛名ラベルおよび志願票・写真票を印刷するために必要です。

③ 必要書類の準備（30ページ [3. 出願に要する書類等] 参照）

④ 角形2号（角2）封筒（240mm×332mm）の準備

出願に必要な書類を送付するため、市販の角形2号（角2）封筒を準備してください。

(2) インターネット出願システムに登録する

インターネット出願システムのページには、以下のURLからアクセスできます。

<https://u.kyoto-u.jp/17adex>

(3) 出願登録

画面の案内に従って、志望情報、志願者個人情報を入力します。

(4) 出願内容の確認

登録した内容を確認してください。内容に間違いがある場合は、「修正する」ボタンを押して修正してください。

(5) 入学検定料等納入方法の選択（決済情報入力）

画面の指示に従って、入学検定料等の納入方法を選択してください。納入方法として「クレジットカードで支払う」もしくは「コンビニ、金融機関ATM【Pay-easy】、ネットバンキングのいずれかで支払う」のどちらかを選択できます。

※出願登録の際に必要な料金は以下のとおりとなります。

① 入学検定料（17,000円）

② 受験票等送付料（370円（医学部医学科は420円））

③ 試験成績送付料（480円）※希望者のみ。詳細は32ページ参照。

以上①～③の料金の他に支払い手数料（500円）が必要となります。

※出願書類を受理した後は、29ページ[※検定料の返還について]のA、イに該当する場合を除き、いかなる理由があっても納入済みの入学検定料は返金しませんので注意してください。

※入学検定料納入後は、登録内容の変更ができませんので、注意してください。

(6) 宛名ラベルおよび志願票・写真票を印刷する

出願登録完了画面からダウンロードできる宛名ラベルおよび志願票・写真票を印刷してください。

(7) 必要書類の郵送

宛名ラベルを貼り付けた封筒に必要な書類を封入し、必ず、書留の速達便で郵送してください。

2. 入学検定料等の納入方法等

入学検定料等の支払いは、以下のいずれかの方法で行ってください。

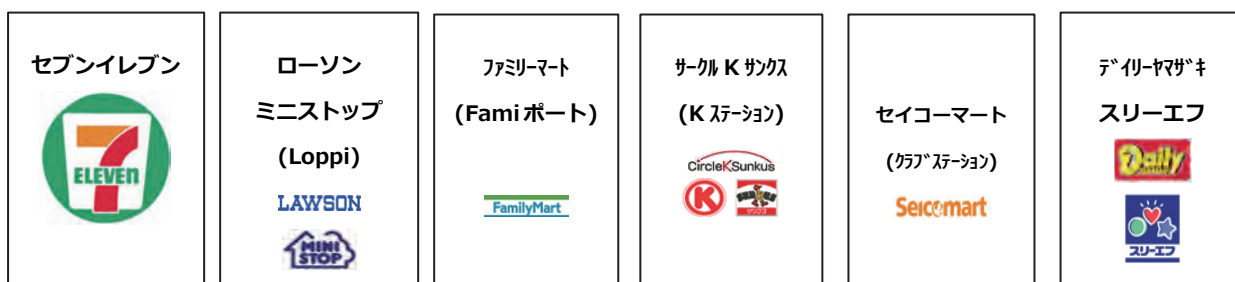
詳しい支払い方法については、出願をする際に、インターネット出願システム上の「入学検定料の支払方法について」の項目を確認してください。

①クレジットカード

クレジットカードに記載されている情報を入力しますので、出願前にクレジットカードを準備してください。支払い方法は一括払いのみです。クレジットカードの利用限度額を確認した上で利用してください。お支払いされるカードの名義人は、志願者本人でなくても構いません。

②コンビニエンスストア

現金での支払いとなります。以下のコンビニで支払いが可能です。



③金融機関 ATM 【Pay-easy】

金融機関で Pay-easy マークの付いている ATM で支払うことができます。支払い可能金融機関は下記ページの「ATM 利用可能一覧」を確認してください。

http://www.well-net.jp/multi/financial_list/index.html

④ネットバンキング

都市銀行、地方銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫、農協、漁協などのネットバンキングを利用することができます。事前に金融機関にて申し込みが必要です。

また、楽天銀行、ジャパンネット銀行、じぶん銀行、住信 SBI ネット銀行でも支払うことができます。事前に金融機関にて口座の開設が必要です。

※検定料の返還について

ア. 第 1 段階選抜不合格者及び出願無資格者

検定料の一部（13,000 円）を返還します。不合格通知書又は出願無資格通知書を送付する際に、返還手続方法について連絡します。

イ. 検定料を納入したが出願書類を提出しなかった場合および誤って二重に納入した場合

検定料の全額（17,000 円）を返還します。検定料の返還を希望する旨を明記のうえ、①志願者氏名 ②郵便番号 ③住所 ④電話番号 ⑤検定料の納入方法 ⑥納入した金融機関名及び支店名又はコンビニエンスストア名及び店名を、下記までファックスにてお知らせください。記載の住所へ返還手続書類を郵送しますので、それに従って手続をしてください。

ウ. 連絡先

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学教育推進・学生支援部入試企画課

TEL : 075-753-2521 FAX : 075-753-2565

平成23年3月に発生した東日本大震災、平成28年4月に発生した熊本地震による災害救助法適用地域において、主たる家計支持者が被災した者で、罹災証明書等を得ることができる場合は、入学検定料を免除することがあります。詳しくは、入試企画課（TEL：075-753-2521）へお問い合わせください。

3. 出願に要する書類等

市販の封筒（角2サイズ 240mm×332mm）の表面にインターネット出願システムの出願登録完了画面から印刷できる宛名ラベルを貼り付け、全ての必要書類を封入し郵送してください。

① 志願票・写真票	<p>インターネット出願システムの出願登録完了画面から印刷してください。なお、以下の点に留意して提出ください。</p> <p>【志願票】 必ず、所定の欄の枠内に大学入試センターから交付を受けた有効な「平成29センター試験成績請求票」「前国公立前期日程用」を貼り付けてください。</p> <p>【写真票】 上半身脱帽正面向きで出願前3か月以内に単身で撮影した写真1枚（縦4cm×横3cm）を枠内に貼り付けてください。 *おって、大学から送付する受験票に写真を貼付する必要があるため、あらかじめ同じ写真をもう1枚準備しておいてください。</p>
② 調査書	<p>文部科学省で定めた様式により、出身学校長が作成し、厳封したもの。</p> <p>*調査書が得られない場合は、以下に記載の【調査書に代えることができる書類について】を参照してください。</p>
③ 入学資格認定書（写） （該当者のみ）	<p>5ページの「Ⅱ 出願資格 8.」により、本学に入学資格認定の申請をし、認定を受けた者は、本学交付の入学資格認定書の写しを必ず提出してください。</p>

【調査書に代えることができる書類について】

- (1) 指導要録の保存期間が経過した者、廃校・被災その他の事情により調査書が得られない者は、「卒業証明書及び成績証明書」を提出してください。成績証明書等を提出できない場合は、「卒業証明書」に加えて学校長からの「発行できない旨の書面」を提出してください。
- (2) 高等学校卒業程度認定試験又は大学入学資格検定（大検）合格者は、「合格成績証明書」（合格証明書は不要）を提出してください。ただし、高等学校等において科目を履修したことにより受験科目を一部免除された場合は、免除された科目の高等学校等の調査書又は「成績証明書」を添えてください。
- (3) 上記（1）および（2）以外の者は、「修了証明書（資格証明書）及び成績証明書」を提出してください。

【注意事項】

- (1) 出願書類に記載事項の記入もれ、その他不備のある場合は受理しません。
- (2) 出願書類の受理後は、出願事項の変更を認めません。
- (3) 出願書類の受理後は、出願書類を返却しません。
- (4) 現在、大学等に在学している者は、受験に際して受験許可書や退学証明書は必要ありません。
ただし、本学に入学する際は、3月31日までに退学し、入学予定学部の教務担当（82ページ参照）に退学証明書を速やかに提出してください。

4. 出願期間および入学検定料納入期間

平成29年1月23日（月）から2月1日（水）午後5時（必着）まで

この期間中に、インターネット出願の登録と入学検定料の納入を済ませ、なおかつ出願書類が本学に到着していなければなりません。

※ただし、出願書類については1月28日（土）以前の発信局消印のある書留速達郵便に限り、期限後に到着した場合でも受理します。

5. 出願状況の情報提供

- (1) 各学部の出願状況について、下記の期間中本学ホームページ（<http://www.kyoto-u.ac.jp>）上に情報提供を行います。（平成29年1月23日（月）午後7時から）
- (2) 個別の出願書類の配達状況について、本学では対応いたしかねますので、日本郵便の追跡サービス（<http://www.post.japanpost.jp/index.html>）をご利用ください。

6. 受験票の送付

「受験票」及び「受験上の諸注意」等の発送は平成29年2月8日（水）頃を予定しています。なお、第1段階選抜不合格者には不合格通知書を、出願無資格者には出願無資格通知書を送付します。

2月16日（木）を過ぎても通知が届かない場合は出願した学部の教務担当（82ページ参照）へ問い合わせてください。

V 入試情報開示

本学では、試験成績、調査票について受験者本人からの請求があれば、以下のとおり開示します。

個人情報保護の観点から、代理人による開示申請は、理由の如何を問わず受け付けません。

【試験成績】

平成29年度入試の試験成績の開示を希望する者は、インターネット出願システムで試験成績送付を申し込んでください。（送付料として480円が必要です。）平成29年5月上旬に書留郵便（親展）で送付します。

開示する試験成績は、大学入試センター試験と受験した学部における個別学力検査等の教科別の得点（配点換算前及び換算後）及び総点です。参考として満点、合格者の最高点、最低点及び平均点を記載しています。

また、個別学力検査等の受験者本人に限り、平成29年7月3日（月）から平成29年11月30日（木）の間に、受験学部の教務担当事務室（場所は82ページ参照）において試験成績を開示します（個別学力検査等の受験票、または本人確認ができるものを持参してください。）。

※試験成績送付申し込み者のうち第1段階選抜不合格者及び出願無資格者に対しては、試験成績送付料（480円）を返還します。不合格通知書等を送付する際に、返還手続方法についてもあわせてお知らせします。

【調査書】

平成29年度入試の調査書の開示を希望する者は、平成29年7月3日（月）から平成29年11月30日（木）までの間に、受験学部の教務担当事務室で申請してください。申請後1週間以内に調査書の閲覧が受験学部の教務担当事務室で可能になります。申請・閲覧ともに個別学力検査等の受験者本人に限りますので、個別学力検査等の受験票、または本人確認ができるものを持参してください。

なお、開示する調査書の内容は、不開示情報（「指導上参考となる諸事項」及び「備考」欄）を除いた部分となります。

VI 障害等のある入学志願者との事前相談について

本学では、障害等があって受験上及び修学上の配慮を必要とする入学志願者のための相談を常時受け付けています。相談の内容によっては対応に時間を要することもありますので、下の様式を用いて、出願前の早い時期に、志望する学部の教務担当へ連絡してください。

特に下表に相当する障害がある入学志願者については、12月末までに連絡がない場合、受験上の配慮が講じられない場合もありますので十分注意してください。

なお、本学ではこれまでに受験に際して、拡大文字問題冊子の配付、別室試験室の設定、トイレに近い試験室の割り当て、注意事項等の文書による伝達、試験時間の延長などを実施しています。

区 分	障 害 の 程 度
視 覚 障 害	・両眼の視力がおおむね0.3未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの
聴 覚 障 害	・両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上のもものうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
肢体不自由	・肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの ・肢体不自由の状態が上記に掲げる程度に達しないものうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病 弱	・慢性の呼吸器疾患、肝臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの ・身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの

[様式]

<p>(様式) A4判縦</p> <p style="text-align: right;">平成 年 月 日</p> <p>京都大学〇〇学部長 殿</p> <p style="text-align: center;">氏名(ふりがな)・生年月日 性別・住所・電話番号・高校名・メールアドレス等</p> <p>京都大学〇〇学部に入학을志願したいので、下記のとおり事前に相談を希望します。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 志望する学部・学科，受験科目 2. 障害等の種類，程度 3. 受験上希望する配慮事項 4. 修学上希望する配慮事項 5. その他 6. 添付書類 <ul style="list-style-type: none"> ・医師の診断書 ・大学入試センター試験受験上の配慮事項決定通知書(写)(大学入試センターに申請し通知書が手元にある者) ・身体障害者手帳(写)(交付を受けている者) ・その他相談する際に必要と思われる参考資料
--

※ 個人情報については、[独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律]及び[京都大学における個人情報の保護に関する規程]に基づいて取り扱います。

Ⅶ 受験に関する注意事項等

1. 受験に関する注意事項等は、個別学力検査等の前日午後に、出願した学部において掲示しますので、必ず確認しておいてください。
2. 個別学力検査等前日及び当日の自動車、バイク等での試験場構内への乗入を禁止します。
3. 個別学力検査等当日は、**個別学力検査等の受験票及び大学入試センター試験の受験票を必ず持参してください。**（入学手続きの際にも両方の受験票が必要になります。）
4. 個別学力検査等当日は、各学部の指示する時刻及び場所に集合してください（時刻の指示がない場合は**試験開始30分前**までに集合してください）。ただし、医学部医学科の**面接試験の集合時刻・場所**については、受験票送付時に別途通知します。
5. 試験開始時刻に遅れた場合は、各教科等とも**試験開始後30分以内**に限り入室を認めます。
ただし、医学部医学科の**面接試験の控え室への入室限度時刻**については、受験票送付時に別途通知しますので注意してください。
6. 個別学力検査等において使用を認めるものは、**黒鉛筆**（シャープペンシルも可）・**鉛筆削り**（電動式・大型のもの・ナイフ類を除く）・**消しゴム**に限ります。※定規は使用できません。
健康上その他やむを得ない理由により、上記以外のものを使用したい場合は、監督者の指示に従ってください。
なお、**時計**（腕時計・置時計・スマートウォッチ等）は試験室に入る前にかばんに入れておいてください。各試験室に電波時計を設置していますので、試験時間の確認は可能です。
7. **携帯電話・スマートフォン・スマートウォッチ等の電子機器類**は、試験室に入る前に必ずアラームの設定を解除し電源を切ってかばんに入れておいてください。試験時間中に身につけている場合、不正行為と見なすことがありますので注意してください。これらを時計として使用することはできません。
8. 試験時間中に監督者が写真票及び机上の受験票の写真と受験者の顔の確認を行います。マスクや眼鏡等について一時的に外すよう監督者が指示する場合がありますので、指示に従ってください。
9. 不正行為等（★「**不正行為等の取り扱い**」参照）の理由で退場を命じられた者は、受験資格を失います。
10. その他受験に関する問い合わせは、出願した学部の教務担当（82ページ参照）に照会してください。

詐欺まがいの行為に注意してください！

例年、試験場周辺において本学関係者を装うなどして、受験者に『合否連絡をする』、『緊急時に自宅に連絡する』などと言葉巧みに近寄り、受験番号・氏名・住所・電話番号などを記入させ、現金を要求する行為が発生しています。

本学関係者が受験者の個人情報聞き出し、現金を要求することは一切ありません。

★ 不正行為等の取り扱い

- ① 次の不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退場を命じられ〔不正行為失格〕となります。〔不正行為失格〕が命じられた場合は、全教科の受験資格を失うこととなります。

ア. 受験票に本人以外の写真が貼ってあった場合や解答冊子に本人以外の名前や受験番号を記入した場合。
イ. カンニング（カンニングペーパー・教科書・辞書及び参考書類の使用，他の人から答えを教わることなど）を行うこと。
ウ. 他の受験者に答えを教えたり，解答冊子の交換等により，カンニングの手助けを行うこと。
エ. 試験時間中に，問題冊子・解答冊子・下書き用紙を試験室から持ち出すこと。
オ. 『解答を始めなさい。』の指示前に，問題冊子を開いたり，解答を始めること。
カ. 試験時間中に，スマートウォッチ等のウェアラブル端末・携帯電話・スマートフォン・電子辞書等の電子機器類を使用すること。
キ. 試験時間中に，定規・コンパス・電卓等の補助具を使用すること。
ク. 『解答をやめなさい。』の指示に従わず，解答を続けること。

- ② 上記①以外にも，次の行為を行うと不正行為となることがあり，場合によっては，文書により警告します。不正行為と見なされた場合の取り扱いは上記①の場合と同じです。

ア. 試験時間中に，時計（腕時計・置時計・スマートウォッチ等）・携帯電話・スマートフォン・電子辞書等の電子機器類や定規・コンパス・電卓等の補助具をかばん等にしまわず，机の上に置いたり，身につけていたり，手に持っていること。
イ. 解答冊子の見せ合い，話し合い，のぞき見等の疑いのある行為を行うこと。
ウ. 試験時間中に，長い間，机の下に手を入れたり，服のポケット等に手を入れたりすること。

- ③ 次の行為を行うと試験妨害と見なされ，その場で試験の中止と退場を命じられ〔退場命令失格〕となります。〔退場命令失格〕が命じられた場合は，全教科の受験資格を失うこととなります。

ア. 監督者の指示に従わず，他の受験者に迷惑となる行為を繰り返すこと。
イ. その他，試験の公平な実施を損なうおそれのある行為をすること。

Ⅷ 合格者発表


合格者の発表は、次の日時・場所において、合格者の受験番号を掲示します。

発 表 日	時 間	場 所
平成29年3月10日(金)	正 午	各学部の掲示場
掲 示 期 間		
前期：平成29年3月10日(金) 正午～3月16日(木) 午後5時		

※ 受験者への合否の通知等はいりません。また、電話等による合否に関する問い合わせには一切応じません。

◎ 京都大学入試情報ホームページにおける発表について

合格者受験番号を京都大学入試情報ホームページにおいて、合格者発表日の正午に掲載します。

携帯電話・パソコン 共通アドレス	
http://daigaku.jc.kyoto-u/	
掲 載 期 間	
前期：平成29年3月10日(金) 正午～3月16日(木) 午後5時	

Ⅸ 入学手続

入学手続は、「1. 入学手続に必要なもの」を期限までに、インターネット出願システムから印刷した入学手続書類送付用宛名ラベルを貼り付けた市販の封筒により書留速達で郵送してください。

所定の期限までに入学手続を行わない者は、入学辞退者として取り扱います。

1. 入学手続に必要なもの

(1) 入学料振込金受付証明書 <入学料 282,000円(予定)>

(注) 受験票送付時に同封する「振込金受付証明書貼付台紙」に貼付すること。

(2) 大学入試センター試験受験票

(3) 本学受験票

(4) 学籍登録シート

(注) 受験票送付時に同封する「学籍登録シート」に写真※を貼付し、氏名等の修正の有無を記入してください。

「大学入試センター試験受験票」記載の「氏名・フリガナ・生年月日」を学籍情報として登録し、学生証を作成しますので、氏名等を必ず確認し、その記載に間違い等がある場合は、それを訂正してください。訂正がない場合は、「訂正無し」欄にチェックを入れてください。

※ 写真について

- ・サイズは縦3cm×横2.4cm、脱帽正面向きで3か月以内に撮影したもの。光沢仕上げ(絹目仕上げは不可)。
- ・裏面に氏名、合格した学部・学科名及び個別学力検査の受験番号を記入してください。
- ・写真は学生証に印刷され、在学期間中(4年間または6年間)使用しますので、高等学校等

の制服着用のもは避けてください。写真を変更するために学生証を再作成する場合は有料となります。

【入学料等について】

ア. 入学料は、受験票郵送時に同封する本学所定の「振込依頼書」により、合格者発表後から入学
手続時までに金融機関(ゆうちょ銀行及び郵便局は除く)の窓口で納入してください。振込の際、
収納印の押された「振込金受付証明書」を受け取り、受験票送付時に同封する「振込金受付証明
書貼付台紙」に貼付し、郵送してください。

イ. 納入した入学料は、返還しません。ただし、所定の入学手続期間内に入学辞退を申し出た者につ
いてはこの限りではありません。

ウ. 授業料は、入学後に口座振替又は銀行振込により納入いただきます。

<平成29年度前期分授業料 267,900円(予定)>

(年額一括納入の場合 535,800円(予定))

※授業料は入学時及び在学中に改定されることがあります。

口座振替の申込方法

以下のいずれかによりお申し込みいただけます。

- ・インターネットによるお申込
- ・「預金口座振替依頼書」によるお申込

※申込方法の詳細は、入学案内等に同封する「口座振替による授業料の納入について」をご
覧ください。

銀行振込の納入方法

口座振替のお申込がない学生にのみ「振込依頼書」を4月20日頃にお送りいたしますので、
当該依頼書をご利用ください。

エ. 入学料免除及び入学料徴収猶予の申請を希望する者は、73ページ「Ⅲ. 修学案内」を参照し
てください。入学料を納入すると申請できませんので注意してください。

2. 入学手続方法

(1) 郵送締切日時

平成29年3月14日(火) 午後5時必着

ただし、上記締切日時までに手続ができない場合は、合格した学部の教務担当(82ページ参
照)へ締切日時までに連絡して、指示に従ってください。

(2) 郵送先・郵送方法

宛先は合格した学部の教務担当とし、36ページの「1. 入学手続に必要なもの」をすべて同封し、
インターネット出願システムから印刷した宛名ラベルを貼り付けた市販の封筒により、必ず書留速達
として郵送してください。

※ 配達状況については、日本郵便の追跡サービス(<http://www.post.japanpost.jp/index.html>)
を利用して確認することができます。

(3) 注意事項等

入学手続が完了後、「大学入試センター試験受験票」、「本学受験票」、「入学許可書」、「入学案内-授
業開始までの手続と行事-」等の書類をレターパックで、3月16日(木)までに発送します。これ
以後の各種手続はWebを用いたオンラインシステム上で行うこととなります。詳細につきましては、
「入学案内-授業開始までの手続と行事-」等をご覧ください。

※3月21日(火)を過ぎても書類が届かない場合は、合格した学部の教務担当(82ページ参
照)へ問い合わせてください。

3. 入学辞退手続

合格者であって、本学への入学の意思がなく、入学を辞退しようとする者は、3月14日（火）午後5時までに合格した学部の教務担当（82ページ参照）へ申し出るとともに、入学を辞退する旨を明記のうえ、①合格者氏名 ②受験番号 ③郵便番号 ④住所 ⑤電話番号をファックスにてお知らせください。なお、ファックス番号は申し出の際にお知らせします。

入学を辞退した者は、本学への入学手続を行うことはできません。

4. 入学手続上の諸注意

本学を含め1つの国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学を除く。）に入学手続を完了した者は、本学で入学手続を行うことはできません。

また、本学に入学手続を完了した者は、これを取り消して他の国公立大学（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学を除く。）に入学手続することはできません。

※ 公立大学協会ホームページ（<http://www.kodaiyo.org>）参照のこと。

X 追加合格

追加合格を行う場合は、追加合格候補者に対し、3月28日（火）から3月31日（金）までの間に、当該学部から志願票に記載の連絡場所へ通知します。

ただし、本学から追加合格候補者として通知を受けた者であっても、既に他の国公立大学（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学を除く。）で入学手続を完了した者は、本学で入学手続を行うことはできません。

なお、追加合格者の入学手続は、次のとおり行います。

1. 入学手続日 当該学部から指示します。
2. 入学手続場所 出願した学部の事務室
3. 入学手続に必要なもの 「IX 入学手続 1. 入学手続に必要なもの」と同様です。

入学料・授業料免除及び入学料徴収猶予の申請を希望する者は、入学手続の際にその旨伝えてください。

XI 個人情報の取り扱いについて

個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「京都大学における個人情報の保護に関する規程」に基づいて取り扱います。

1. 入学者選抜を通じて取得した氏名、住所、その他の個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格者発表、③入学手続業務を行うために利用します。
2. 入学者選抜に用いた試験成績は、今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用します。
3. 上記1. 及び2. の各種業務での利用にあたっては、一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下、「受託業者」という。）において行うことがあります。

したがって、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、個人情報の全部又は一部を提供します。

4. 国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うため、氏名、受験番号、大学入試センターの受験番号、合否及び入学手続に関する個人情報を、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送付いたします。
5. 入学者選抜を通じて取得した個人情報は、入学者のみ①教務関係（学籍管理、修学指導、教育課程の改善等）、②学生支援関係（健康管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請等）、③授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

ⅩⅡ 学部・学科紹介

◇総合人間学部

(1) 学部設立の基本理念

本学部は、平成4年10月1日に法令上設置され平成5年4月に第一期生を迎えた、京都大学で最も新しい学部です。

新学部を「総合人間学部」と名づけた理由は、本学部の研究・教育が、自然と調和した人間の全体的形成を目標とするものだからです。本学部では、心理や思想といった内面、あるいは身体面だけでなく、政治・経済・文化・歴史といった社会環境、さらには物質や生物などの自然環境との関係を含めて、人間存在のあらゆる面に光を当てる、さまざまな学問を学ぶことができます。人間と人間をとりまく世界を総合的に捉えること、これが総合人間学部に与えられた課題なのです。

現代社会の危機を克服するためには、人間自身を最大のテーマとして取り上げなければなりません。そうしてこそ初めて人類生存の可能性や文明の可能性が求められるからです。このような根本的な問題の追究は、従来のような高度に専門化された研究だけでは不可能です。京都大学の自由の学風と伝統のもとに、既存の個別科学の枠を越えた、より多様で総合的な学問の場を提供することを、本学部はめざしています。

総合人間学部は、大学院人間・環境学研究科に直結する学部として構成されています。専攻分野の細分化を避けて、時代の要請に適應できる1学部1学科制をとり、総合人間学科の下に、人間科学系、認知情報学系、国際文明学系、文化環境学系、自然科学系の5学系を設けています。

5学系全体で120名の入学生は、最初の1年間ほどの学系にも属しません。そして、自由に広い学問分野に触れた上で、2年進級時に自らの学系・主専攻を選択します。その際、「文系」または「理系」のいずれの入学試験を経たかは問われません。また広い視野を持つ創造性豊かな人間を育成する目的で、本学部は副専攻の制度を設けています。これは各自の主専攻の他に、異なる学問分野を系統的に履修することによって、幅広い専門知識を身につける制度です。卒業の際には、学士の学位記とは別に、主専攻・副専攻を明記した専攻認定書が発行されます。

(2) 総合人間学部が望む学生像

本学部の基本理念に共鳴し、積極的に総合人間学の開拓を志す学生、また文系・理系の既成の枠に縛られることなく、多様化する21世紀国際社会のリーダーたらしめる学生、未知の分野・未踏の地を恐れず、限りない好奇心をもつことのできる学生、学を究めるためにはいかなる労苦をもいとわず、その先に見えてくる新たな光に無上の喜びを感じることできる学生、本学部はそういう学生が門をたたくことを望んでいます。

◇文 学 部

文学部が望む学生像

1. 京都大学文学部は、哲学・歴史学・文学・行動科学に関わる諸問題を学び考え、自由の学風を重んじる本学の基本理念を踏まえながら、新たな知的価値を創出することをめざす学生を求めています。
2. 入学者選抜においては、以下の点が問われます。
 - (1) 総合的な基礎学力をもっていること。
 - (2) 過去から、現在に至り、さらに未来にまでのびる人類の営みに関して、深い関心をもっていること。
 - (3) 高度の文章読解力、および論理的かつ柔軟で、創造性豊かな思考力をもっていること。

◇教 育 学 部

教育学部が望む学生像

20世紀は教育が学校中心に機能した学校教育社会でした。しかし、21世紀は学校だけでなく、社会のさまざまな場所と一人ひとりの人生のさまざまな局面とにおいて、人間形成の営みがゆるやかにネットワーク化される「人間形成社会」が出現すると予想されます。これからの教育学は、この「人間形成社会」の展開過程で必要になる、新しい種類の〈教育〉を創造するという課題に取り組まなければなりません。

そのため、教育学部では、教育と人間にかかわる多様な事象を対象とした諸科学を学ぶことで、心と人間と社会についての専門的な識見を養成し、さらに広い視野と異質なものへの理解、そして多面的で総合的な思考力と批判的な判断力を形成し、人間らしさを擁護し促進する態度を啓培することによって、新しい種類の〈教育〉を創造し、地球社会の調和ある共存に貢献できる人材の育成を目的としています。このような人材を育成するために、教育学部では、心と人間と社会について深い洞察力をもち、柔軟な思考と豊かな想像力に富む学生を求めています。

教育学部では、平成27年度までに既に3,500名を超える卒業生を送り出しており、卒業後の進路は、公私立学校、福祉関係、官公庁をはじめ製造業・金融保険業・商社等の一般企業や、新聞社・出版社・放送界等ジャーナリズム関係など多岐にわたっています。また、約3分の1の学生は、より高度な専門知識を身につけるため大学院に進学しています。

◇法 学 部

法学部が望む学生像

21世紀に入り、世界も日本も大きな転換期を迎えており、それに伴い様々な問題が生じています。こうした状況に対応して、世界の中での国家や社会のあり方を考え、これからの豊かな人間社会を構築していくためには、人間・社会・歴史に対する深い洞察力を基礎として、法律と政治の仕組みに関する専門的な知識を備え、社会全体を視野に入れながらそれらを組み合わせる構想力を有し、国家・社会についての制度設計や組織運営に指導的にかかわっていくことのできる人材の育成が不可欠となります。また、地球規模での交流が活発となっている今日、文化の多様性を尊重し、グローバルな視点のもとで法と政治、経済、社会の問題を捉え、人々の協調する平和な社会の実現に貢献できる国際感覚あふれた教養人が求められています。

法学部は、こうした能力を備えた人材を育成するために、法学・政治学の基礎的・原理的知識を提供するとともに、国際感覚を養い、現代社会にふさわしい総合的な知見を修得させることを、教育目標としています。

このような目標のもと、法学部では、世界・国家・社会の様々な問題に対する強い関心を持ち、多方面にわたる基礎的な学力を備え、論理的思考力にすぐれた学生を求めています。

本学部の卒業生は、裁判官、弁護士、検事、研究者、国家・地方公務員、国際機関職員として、また、金融機関、商社、マスコミ関係など、多方面で活躍しています。法科大学院（いわゆるロースクール）制度の発足後は、法学部を卒業し、法科大学院を経て法曹界で活躍する人が多数出ています。

◇経 済 学 部

教育理念

自学自習による卓越した知の継承をはかり、創造性を涵養するという京都大学の理念に照らして、現代経済社会の多面的な課題に専門的知識をもって挑戦する人材、地球社会の調和ある共存に貢献する人材、豊かな人間愛と人権感覚を備え、公正を求める廉潔な心情をもった人材を育成することが、京都大学経済学部の教育理念です。

教育目標

この教育理念を実現するために、京都大学経済学部では以下の目標を掲げ、その遂行・達成に取り組みます。

- 1.多様な入試を通じて、多彩な個性、文化的背景を持つ学生を集め、経済・経営に関する柔軟かつ多様な視点と能力を持つ学士を育成し、社会の広い分野に供給します。
- 2.経済学・経営学についての幅広い基礎的な学問を修得させると共に、柔軟な思考力と創造性を養うために多面的なカリキュラムを整備して教育にあたり、演習を重視して個人指導および集団学習をおこないます。
- 3.世界最先端の経済学・経営学の研究成果を用いて、経済学研究科と連携しながら、高度な専門教育の充実をはかります。
- 4.政府機関や企業、非営利団体等との研究教育パートナーシップを通じて、経済・経営に関する高度で実践的な能力の開発をはかります。
- 5.経済のグローバル化のもとで、持続的経済発展に貢献できる国際的な能力を持つ人材の育成につとめます。
- 6.こうした教育活動の全体を通じて、時代の進展に対応した基礎的・専門的学力を備えさせるとともに、豊かな人間愛、人権感覚を備え、公正を求める廉潔な姿勢をもった人材の育成につとめます。

アドミッション・ポリシー（経済学部が望む学生像）

- 1.経済学の研究対象である経済活動は、人間が生きていくためにもっとも基本的なものです。私たちが毎日生活しているのは、多くの人々が日々経済活動を営んでいるからこそ可能となっているのです。しかしその経済活動は決して単純なものではなく、産業空洞化、雇用問題、財政赤字、少子高齢化、エネルギー環境問題など、私たちが解決すべき経済問題が、次々と新たに発生し、複雑性を増しています。
- 2.このような状況を前にして、経済学の課題を解決するためには、どのような事態になっても対応できる柔軟な思考力と創造性を備えることが重要であると私たちは考えています。
- 3.本学部は、大正8（1919）年に創設された、日本でもっとも古い伝統を誇る経済学部のひとつですが、この長い歴史を通じて、基礎的な科目の教育を充実すると共に、絶えず新しい分野の学問を教育すること

を心がけ、社会経済の激動に柔軟に対応し、解決策を発見、創造できる人材を育成することを目標としてきました。

- 4.そして現に経済学部は、学界、官界、産業界などで、このような能力を持つ多くの人材を輩出してきたと自負し、またそのような評価も受けています。私たちは、このような京都大学経済学部の良き伝統を継承し、そこに新たな歴史のページを刻み込む強い意欲を持つ学生諸君が門を叩いてくれることを望みます。
- 5.多様な背景をもつ学生を受け入れるため、本学部では、「文系入試」、「理系入試」および「特色入試」という3種類の学力検査を実施します。これら3種類の入試すべてで、高等学校までに十分な基礎的学力を身につけることを求めています。とくに理系入試においては、数理的能力を重視した選抜を行います。また特色入試では総合的な学力とともに自学自習の能力を重視した選抜を行います。その他にも、留学生、外国学校出身者、3年次編入者向けに、多様な学力検査の機会を提供します。

◇理 学 部

理学部の教育理念

教育目標

- ・自然科学の基礎体系を深く習得し、それを創造的に展開する能力の養成
- ・個々の知識を総合化し、新たな知的価値を創出する能力の養成

教育の特徴

- ・自由な雰囲気の下で学問的創造を何よりも大切にし、自律的学修が推奨される学風
- ・理学科のみの1学科制
- ・緩やかな専門化を経て、研究の最前線へ

望む学生像

- ・自由を尊重し、既成の権威や概念を無批判に受け入れない人
- ・自ら考え、新しい知を吸収し創造する姿勢を持つ人
- ・高等学校の教育課程の修得により培われる十分な科学的素養、論理的合理的思考力と語学能力を有し、粘り強く問題解決を試みる人

理学は、自然現象を支配する原理や法則を探求する学問です。その活動の長い歴史を通じて、人類の知的資産としての文化のより深い発展に大きな役割を果たしてきました。また、理学は人類全体の生活の向上と福祉に貢献することを目的としております。

京都大学理学部は、自由な雰囲気の下で学問的創造を何よりも大切にしてきました。この気風が、新しい学問分野の創造に重要な役割を果たしてきました。その一端は、卒業生の中から4名のノーベル賞受賞者と2名のフィールズ賞受賞者を出したことから窺えます。この学風を継承しつつ、京都大学理学部は広く開かれた教育・研究機関として発展しています。

京都大学理学部は、上に掲げた教育理念を実現するために、理学科のみの1学科制をとっています。それは、学年とともに緩やかに専門化を進めることによって、学生諸君が自分に最も適切な専門分野を、自分自身の学修を通して見い出せるようにするためです。入学試験の呪縛から解放されて、高校時代に興味を抱いた学問分野に深く踏み込んでいくことを是非やってみてください。あるいは、大学入学後に、高校で履修しなかった分野に対する興味を持つようになる場合もあるでしょう。そういった場合にも対応できるように、みなさんにとっての新しい分野との出会いのための講義も用意されています。その一方で自律的学修の姿勢を養うため、少人数対話型教育が充実されていると共に、学生による自主ゼミ等の勉学活動を積極的に支援する体制が整えられています。そして、相応しい分野を見出した人が、講義と教科書の世界から飛び出して、フィールドや実験の実習を通して、あるいは紙と鉛筆を手に、自らの手足を動かし脳みそを振り絞ることで、学問に対する情熱をより一層沸き立たせられるようカリキュラムが工夫されています。このようにして、学生諸君が自ら体系的な基礎学力と技術を習得しつつ、学年の進行とともにその専門化の程度を進め、最終的にはその研究分野の最前線に近づくことを目指します。

このように組まれたカリキュラムによる学修により、自己の世界を広げ、自己の相対化ができ、自然に対して謙虚な探求的態度を維持しつつ、理学の方法を問題の発見と解決に適用できる存在となる基盤が獲得されます。卒業後は、その基盤に立って、研究者として、あるいは責任ある職業人として活躍し、新たな知的価値を創出することを切望します。

◇医 学 部

医学部が望む学生像

京都大学医学部は21世紀の医学・医療の発展を担い、人類の福祉に貢献することを自らの使命と考え、この理想を追求する学生を求めています。医学には大きく分けて、基礎医学および臨床医学の研究に携わる

分野、多様な疾患に悩む患者の医療に携わる分野、さらに環境・福祉・予防など、広く地球的な視点から人々の健康増進に関わる社会医学分野があります。

医学は生命科学の中心的分野の一つです。医学研究は生命の不思議を解き明かし、その結果知り得た生命の営みの原理に基づき、なぜ病気が起こるかを解明しようとするものです。さらにこの病因解明に基づき、新たな診断法や治療法、およびその予防法の開発に努力を傾けます。このような医学研究の遂行には、真理を追求するための強い好奇心と未知への挑戦心、不屈の精神と忍耐力などが必要です。

医療の原点は「人を愛する」ことにあります。それ故、医療に携わる者には、感性豊かな人間性や人間そのものに対する共感と深い洞察力、および人々の健康を増進し、病める者を救おうという強い意志と情熱が必要です。また現代の医療は多様な職種の専門家との連帯あるいは共同作業を要することから、医師には円滑に医療を遂行するための指導力と大きな包容力、ならびに厳しい倫理観が求められます。さらに、医療の進歩と発展に寄与するためには、強い向上心と探求心を持ち続けることのできる人材が求められます。

社会医学は、単に一人ひとりの患者ではなく、我が国あるいは世界の大きな集団を対象として、人々の健康増進を追求する分野です。さらに、このような問題解決のために行政的、あるいは啓発的活動も行う必要があります。このような社会的な要因による医学的問題解決のためには、秀でた社会性と優れた行政的活動能力、および幅広い国際性が要求されます。したがって、この分野では広い視野を持ち、人間社会全体に目を向ける感性、柔軟な思考力と豊かな人間性を持つ人材が望まれます。

京都大学は学生の自主性、自己啓発を教育の主眼として、個性豊かな創造性の涵養を目指しているため、自ら学習課題を発掘し解決しようとする主体性を持った人材を求めています。さらに、京都大学医学部は多様な能力と幅広い教育背景を持ち、医学・医療の分野で指導的立場に立ちうる人材を集めたいと考えています。このような背景に鑑み、医学に従事する職業的な制約による適性を重視し、高い知的能力のみならず、人間性を含めた総合的に卓越した能力・人格を有する学生の入学を切望するものであります。

◎医学科

医学部・医学科の教育のあらまし

本学科の修業年限は6年です。入学当初より、医療に対する関心をはぐくむ取組に参加するとともに、研究に対する関心を育てる取組も提示され、さまざまな体験を通じて将来のキャリアを見すえた視点を構築します。また、主として最初の2年間に、全学共通科目の履修が求められ、各学部の枠を越えて開講される授業に参加することができます。全学共通科目の中でも、修得すべき単位数が定められているほか、将来の必要性を考慮して重点的に履修を求められる科目があります。所定の単位を修得すると3年生への進学が認められます。

専門基礎科目は、レベル教科として2年生から履修がはじまります。レベル教科とは、生体の構成要素を分子、細胞、組織などのレベルに分け、体系的に学習するものです。レベル教科を修得したのち、専門臨床科目としてシステム教科を履修します。システム教科とは、人体を呼吸器系、循環器系、消化器系、血液免疫系、内分泌・代謝系、脳神経系、運動骨格系、皮膚結合組織系、感覚器系、泌尿器・腎臓系、生殖系などといったシステムに分け、それぞれの病態に関して臨床的な視点から学ぶものです。このような枠組みに入りにくい教科も、有機的にレベル、システム教科の中に組み入れて、専門科目としてのカリキュラムを充実させています。健康と社会・環境との関係を公衆衛生の視点から学ぶ社会健康医学系の学習もその一つです。4年生の時点で、これらの科目の履修をすべて修了し、臨床入門実習を履修して医療系大学間共用試験に合格した学生は、臨床実習に進むことができます。5年生春から6年生秋までの間、診療の現場において臨床実習が始まります。本学は、地域の医療を担うレベルの高い医療機関と人事交流があり、こうした医療機関の指導医のもとでも、附属病院のみならず、第一線の医療を学びます。

本学科では、自分自身の将来のキャリアを形成するため、継続的な取組を行っています。実際の医療がどのように行われているか、その際のチーム医療の重要性を入学後、早い時期から体験することは、自分自身の医療専門職としての将来を見つめる上で重要であり、医療者としての適性をみつめ素養をつけることを学生に求めています。たとえば、1年生には、人間健康科学科・薬学部薬学科の学生と、学外の病院で実習を行っています。また、2年生では、臨床・基礎・社会健康系の医師にキャリアインタビューを行う活動を行います。また、医療に関する体験だけでなく、研究に対する関心を開拓する取組も学生に提供されます。1年生からラボ・ローテーションで研究室訪問を行うことができます。学生時代から継続的に研究する学生も少なくなく、各研究室は広く門戸を開いています。こうした積み重ねを経て、4年生のマイコースプログラムでは、主として研究面で学生の自発的な取組を実践するカリキュラムが設けられています。研究への志向が明確な学生に対しては6年の卒業を待たずに、大学院に進学するMD-PhDコースも設けられています。このコースは、6年制医学部に大学院博士課程（3-4年）を組み込み、卒業時には医学士（MD）に加えて医学博士（PhD）を得ることができるものです。

卒業後は、専攻する進路によって異なりますが、多くの卒業生が医師免許取得後、2年間の卒後臨床研修を行います。また、臨床医として修練を積む過程で、研究に携わることは重要で、一定の臨床経験の後、大学院に進学する卒業生が数多くいます。また基礎医学を専攻し研究を志して、卒業後ただちに大学院に進学

する卒業生もいます。このように本学は、学部学生のための教育機関というだけでなく、大学院大学としての機能も充実しており、大学院学生として水準の高い研究、教育の機会をえることができます。本学の多くの卒業生が医師、研究者、教育者、あるいは医療行政官として我が国の医学界で指導的な役割をはたしています。

◎人間健康科学科

医学部・人間健康科学科の教育のあらまし

人間健康科学科は先端看護科学コース、総合医療科学コース、先端リハビリテーション科学コース（理学療法学講座、作業療法学講座）の3コースより構成されています。修業年限は4年でその間に全学共通科目、専門基礎科目、専門科目を履修します。いずれの専攻も初めの2年間は主に全学共通科目を履修し幅広い教養を身に付けます。全学共通科目と平行して2回生からは専門基礎科目を履修します。専門基礎科目は3コースともに共通して学ぶべき医学・医療領域のコアカリキュラムと位置付けられる重要なものです。2回生後期より以下に説明してあるような各コース別の専門科目の履修が始まります。3回生には病院などにおける臨床実習、そして4回生では卒業研究などを行います。指定された単位を修得し卒業したのものにはそれぞれ看護師、保健師（選択制）、臨床検査技師（選択制）、理学療法士、作業療法士などの国家試験受験資格が与えられます。

将来優れた医療専門職や研究者となることを目標とした教育システムを準備しています。まず入学当初より専門科目の一部を履修する教育方法、いわゆるアーリー・エクスポージャーを行います。また自学自習を基本とした問題解決型授業を行います。さらに3コースの学生が合同で学ぶことにより、将来のチーム医療に臨む基盤を育てます。

以上のような教育を効果的に行うために教育設備を充実し、学生と教員の交流を高めるような様々なアイデアを用意しています。

◇薬学部

薬学部が望む学生像

薬学は、人体に働きその機能の調節等を介して疾病の治癒、健康の増進をもたらす「医薬品」の創製、生産、適正な使用を目標とする総合科学です。京都大学薬学部は、この薬学という学問の基礎体系を深化させ、創薬科学、医療薬学の教育・研究を通して薬学の進展と社会の発展に貢献することを目標としています。そのため、京都大学薬学部においては、薬学の基礎体系を習得して、創薬、医療薬学に関わる科学者、高度な先端医療を担うことを目指す人材を求めています。

薬科学科

薬科学科の修業年限は4年であり、その主たる使命は医薬品の創製に関わる科学者となる人材を育成することにあります。薬科学は生命の営み、疾病の原理の解明に基づき、新たな医薬品の創製、薬物治療法を開発することを目指しています。このような薬科学を行うには、真理を追求するための強い好奇心と未知への挑戦心、不屈の精神と忍耐力などが必要であり、自ら考え、探求し、創造する豊かな心を持つ人材が求められます。

薬学科

薬学科の修業年限は6年であり、その主たる使命は最適な薬物治療を実現する科学者、指導的薬剤師となる人材を育成することにあります。医療の進歩と発展を担い、医療薬学研究者、高度な先端医療を担う指導的薬剤師を目指すために、豊かな科学的思考力、人類の健康増進に貢献することに対する強い意志と情熱、医療人としての適正な倫理性を持つことが必要であり、そのための向上心と探求心を持ち続けられる人材が求められます。

◇工学部

工学部の理念と歴史

学問の本質は真理の探究です。その中で工学は人類の生活に直接・間接に関与するテーマを扱っています。そのため、地球社会の持続的な発展や文化の創造などの問題についても責任を持って対応しなければならない立場にあります。京都大学工学部では、このような考え方に立って教育・研究を行います。教育にあたっては、しっかりとした基礎学力と高度の専門能力、高い倫理性、ならびに豊かな個性を兼ね備えた人材の育成を目標にしています。

また、研究においても基礎を重視するという姿勢でのぞんでいます。自然環境と調和のとれた科学技術の発展ということにもつねに注意をはらっています。

ここで京都大学工学部の歴史を少し紹介しておきましょう。京都大学工学部は明治30年（1897）に京都帝国大学理工科大学として土木工学科、機械工学科で出発しました。その翌年には電気工学科、製造化学

科および採鉱冶金学科が、また大正9年（1920）には建築学科が開設されました。以来様々な整備拡充が行われ、平成8年（1996）に現在の6学科、すなわち、地球工学科、建築学科、物理工学科、電気電子工学科、情報学科、及び工業化学科に再編されました。

教育方針

京都大学工学部の教育の特徴は、京都大学の伝統である「自由の学風」の下で、先に述べたように「学問の基礎を重視する」ところにあります。「自由の学風」とは、既成概念にとらわれず、物事の本質を自分の目でしっかりと科学的に見るといことです。そこでは、学問に対する厳しさが要求され、それが、「学問の基礎を重視する」ことにつながります。一般的には「工学部は応用を中心とする学部である」と考えられているので、上のように「基礎重視」といいますと、やや異質な印象を持たれるかもしれません。しかし、京都大学工学部では、基礎となる学理をしっかりと学んでおくことが、将来の幅広い応用を可能とするための必須条件であるという信念の下に、この教育方針を貫いています。

教育内容をもう少し詳しく説明しておきます。京都大学工学部へ入学すると、1～2回生で、一般的な教養教育、英語他の外国語教育、理系全般に共通の基礎教育を受けます。また、それぞれの学科・コース特有の専門教育も1回生から始まり、しだいにその重みを増していきます。4回生になると、特別研究という科目で学生1人1人が特定のテーマに取り組みます。特別研究では、学生は希望の研究室に配属され、研究の最先端に接しながら、指導教員・大学院生と一緒に研究が出来るようになっていきます。学部卒業後、大学院へ進学すれば、より高度な専門教育と研究指導を受けられます。これまで、京都大学工学部は、上のような教育を通して、幅広い応用能力、まったく新しい未知なる課題へ敢然と取り組む自主性・創造性、および豊かな教養と厳しい倫理観を備えた卒業生を輩出してきました。

望ましい学生像

このような教育を受けていただくために、次のような入学者を求めています。

- (1) 高等学校での学習内容をよく理解して、工学部での基礎学理の教育を受けるのに十分な能力を有している人。
- (2) 既成概念にとらわれず、自分自身の目でしっかりと物事を確かめ、それを理解しようとする人。
- (3) 創造的に新しい世界を開拓しようとする意欲とバイタリティーに満ちた人。

以下、各学科の内容を、詳しく紹介します。

◎地球工学科が望む学生像

「住みやすく豊かな都市と地域」、「安全に暮らせる国土」、「資源・エネルギーを基礎とした持続的文明」、「環境に配慮した地球社会」を築いていくために、広く社会に役立つ「土木工学」、「資源工学」、「環境工学」を学びたい人を求めています。社会に貢献するための科学技術を学びたい人、多様な技術を集約して問題の解決をしたい人、官・民・学の広い範囲から就職先を考えたい人、国際的に活躍したい人に最適な学科です。

◎建築学科が望む学生像

人間生活に密接に係わる建築は、多様な技術を総合した創造的な努力によってつくりだされます。このため、自然科学だけでなく、人文科学、社会科学、さらには芸術にも深い関心をもつ学生を歓迎し、その才能を伸ばす教育をおこないます。卒業後は建築家、建築技術者・研究者、建築行政担当者、各種開発事業にたずさわるプランナーなど、多様な分野での活躍を期待しています。

◎物理工学科が望む学生像

次世代の画期的な機械システム、新材料、エネルギーシステムを開発すること、宇宙空間へ活動の場を拡げていくことに強い関心を持ち、これらの課題の実現に向け、物理学を基礎とした工学を学ぶ意欲を持つ人材を求めます。新しい技術の創造のために、基礎的な学問を十分に修得し、それぞれの専門分野で指導的な技術者・研究者として活躍することを目指す学生を望みます。

◎電気電子工学科が望む学生像

自然現象や科学技術、その人間生活との関わりなどに対して広い関心と旺盛な探究心をもつとともに、電気電子工学関連の学術分野へ強い興味を有し、専門教育を受けるのに十分な基礎学力と論理的思考力を備えた創造性豊かな入学者を求めています。

◎情報学科が望む学生像

新たな学術領域である情報学を学ぶことによりグローバル化した高度情報社会を創造的に発展させること、そこで起こる幅広い問題を情報科学と数理的思考により解決することに強い関心を持つ人を求めます。数学、

物理学をはじめとする理科系科目に興味を持つことはもちろん、情報学が関係する人文・社会科学を含めた諸学問を積極的に学ぶ意欲を持つ人を求めます。

◎工業化学科が望む学生像

化学および化学に関連する工学のすばらしさを理解し、学習する志と意欲をもち、既成概念にとらわれずに物事を論理的に考え、さらに自ら問題を解決しようとする人を求めます。したがって、高等学校での学習内容をよく理解して、工業化学科での専門教育を受けるのに十分な基礎学力と能力を有していることが望まれます。

◇農学部

農学部が望む学生像

農学は、生物学のみならず、化学、物理学、社会科学等の多様な基礎知識を必要とするいろいろな学問分野から成り立っています。21世紀の重要課題である生命・食料・環境に関わる様々なかつ複合的な問題に立ち向かっていくためには、特定の専門に偏らない広い視野に立った総合的な取り組みが必要です。本学部は、それぞれの分野に共通する基礎的科目を系統的に教育するとともに、学科毎に異なる高度な専門教育を実施することにより、広い視野と高度な専門知識を持った多様で優れた人材を養成することを目的としています。したがって、各学科が対象とする様々な課題に果敢に挑戦する意欲を持ち、それぞれの専門教育に必要な学力を有する人材を求めています。

◎資源生物科学科が望む学生像

「農業、畜産業および水産業が抱える諸問題や生物学的諸現象に広く関心を持ち、勉学意欲に富み、問題に対して幅広い視点から論理的に解決案を見出ししていく能力を有する人」を求めます。したがって、英語などの基礎科目について十分な素養を備えているとともに、とりわけ生物学をはじめとする理科の科目に関して十分な学力を有していることが望まれます。

◎応用生命科学科が望む学生像

生命科学に強い関心を持ち、生命現象や生物の機能を化学的なアプローチによって解明・活用することに興味がある人、「健康」に関心を持ち食料生産と環境保全について興味がある人を求めます。多くの分野にまたがる領域にも飛び込んでいける人が望まれます。

◎地域環境工学科が望む学生像

農業・農村問題や環境問題、人類への食料供給問題に強い関心を持ち、これらの問題解決に向けた物理学、数学を基礎とした工学的・技術的な方法論に関し勉学を志す人材を求めます。ただし、農業生産と密接な関係があることから、生物学や生命科学などにも強い関心を持つ学生が望まれます。

◎食料・環境経済学科が望む学生像

食料、環境、農林水産業等において生ずる様々な社会・経済問題に対して強い関心を持ち、幅広い観点から自身の力で論理的・実証的に問題の解決に向かって努力する人材を求めます。理科系科目に興味を持ちつつ、経済学を基本としながらも、経営学、社会学、歴史学など人文・社会科学を積極的に勉学したい学生を望みます。

◎森林科学科が望む学生像

人類の健康で快適な生活には、食料とともに環境の良い生活空間が必須です。森林科学科では身近な生活空間から地球規模の環境問題までを視野に入れて、森林の保全と育成、木材などの資源の有効利用、森林・農村・都市の良好な関係などの課題に積極的に取り組む人を望みます。

◎食品生物科学科が望む学生像

食に関わる幅広い問題に関心を持つとともに、生物学、生化学、有機化学、物理化学など、生命科学に関わる基礎学問を学ぶ意欲を持ち、これらの学問的背景のもとに、食品生物科学の学理を修得し、将来、食品科学および健康科学に関わる創造的な研究ならびに開発・生産活動を目指す、積極的な人を求めています。

2. 法学部後期日程（特色入試）

I 入学定員・募集方法等

1. 入学定員・募集人員

特色入試（法学部を除く）において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加えます。

募集人員 学部・学科		入学 定員	募集区分		
			前期日程	後期日程	その他の選抜方法
総合人間学部		120	文系 62		特色入試：5人
			理系 53		
文学部		220	210		特色入試：10人
教育学部		60	文系 44		特色入試：6人
			理系 10		
法学部		330	310 <small>(外国学校出身者のための選考10人以内含む)</small>	20 <small>(後期日程の募集は特色入試として行う)</small>	外国学校出身者のための選考：10人以内
経済学部		240	文系 190 <small>(外国学校出身者のための選考10人以内含む)</small>		特色入試：25人 外国学校出身者のための選考：10人以内
			理系 25		
理学部		311	306		特色入試：5人
医学部	医学科	107	102		特色入試：5人
	人間健康科学科	100	70		【先端看護科学コース】 特色入試：20人 【先端リハビリテーション科学コース (理学療法学講座)】 特色入試：5人 【先端リハビリテーション科学コース (作業療法学講座)】 特色入試：5人
	計	207	172		
薬学部 ※1	薬科学科	50	47		【薬科学科】 特色入試：3人
	薬学科	30	30		
	計	80	77		
工学部	地球工学科	955	937 <small>(別表1のとおり)</small>		【地球工学科】 特色入試：3人 国際コースのための選考：30人以内 【電気電子工学科】 特色入試：5人 【情報学科】 特色入試：3人 【工業化学科】 特色入試：7人
	建築学科				
	物理工学科				
	電気電子工学科				
	情報学科				
工業化学科					
農学部	資源生物科学科	300	282 <small>(別表2のとおり)</small>		【資源生物科学科】 特色入試：3人 【応用生命科学科】 特色入試：3人 【地域環境工学科】 特色入試：3人 【食料・環境経済学科】 特色入試：3人 【森林科学科】 特色入試：3人 【食品生物科学科】 特色入試：3人
	応用生命科学科				
	地域環境工学科				
	食料・環境経済学科				
	森林科学科				
食品生物科学科					
合計		2,823	2,678	20	

※1 薬科学科は4年制、薬学科は6年制です。

なお、工学部と農学部は、入学定員を学部として定め、別表1と別表2のとおり、受入学生数を目安として学科別に合格者を決定します。

学部・学科等		受入学生数(目安)
工学部	地球工学科	182 <small>(国際コースのための選考30人以内含む)</small>
	建築学科	80
	物理工学科	235
	電気電子工学科	125
	情報学科	87
	工業化学科	228

工学部は学科を第2志望まで選択することができます。

学部・学科等		受入学生数(目安)
農学部	資源生物科学科	91
	応用生命科学科	44
	地域環境工学科	34
	食料・環境経済学科	29
	森林科学科	54
	食品生物科学科	30

農学部は学科を第6志望まで選択することができます。

2. 試験実施方式・日程

- (1) 本学は、分離分割方式による前期・後期日程（特色入試）試験を実施します。
- (2) 志願者は、分離分割方式の「前期日程」の大学・学部等から1つ、「後期日程」の大学・学部等から1つの合計2つの大学・学部等に出願することができます。
- (3) 前期日程試験の大学・学部に合格し、平成29年3月15日までに入学手続きを行った者は、後期日程試験を受験しても合格者となりません。
- (4) 本学も含め全ての国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学を除く。）の推薦入試又はAO入試合格者は、当該推薦入試又はAO入試を実施する大学・学部の定める入学辞退手続により入学の辞退を許可された場合を除いて、本学個別学力検査等を受験しても合格者となりません。

※ 独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学については、公立大学協会ホームページを参照のこと。（<http://www.kodaikyo.org/>）

(5) 主な日程

出願書類受理期間	平成29年1月23日（月）～2月1日（水）
第1次選考合格者発表日	2月28日（火）送付予定
試験実施日	3月13日（月）
合格発表	3月23日（木）正午
入学手続	3月27日（月）午後5時 必着

※上記日程等については各項目の該当ページを確認のこと。

3. 募集方法及び合格者の決定方法等

法学部は、「前期日程」試験及び「後期日程（特色入試）」試験に分けて募集し、合格者を決定します。

II 出願資格

次のいずれかに該当する者で、平成29年度大学入試センター試験において受験を課す教科・科目（54ページに記載した法学部特色入試の「大学入試センター試験の利用教科・科目名」欄参照）のすべてを受験した者。

1. 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び平成29年3月卒業見込みの者
2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成29年3月修了見込みの者
3. 外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び平成29年3月31日までに修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
4. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び平成29年3月31日までに修了見込みの者
5. 文部科学大臣が指定する専修学校の高等課程を文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成29年3月31日までに修了見込みの者
6. 文部科学大臣の指定した者（昭和23年文部省告示第47号—大学入学に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者の指定—）
7. 高等学校卒業程度認定試験又は大学入学資格検定（大検）に合格した者及び平成29年3月31日までに合格見込みの者で、平成29年3月31日までに18歳に達するもの
8. 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成29年3月31日までに18歳に達するもの（下記【個別入学資格審査の申請方法等】参照）

【個別入学資格審査の申請方法等】

上記の出願資格8. により出願を希望する者は、事前に個別の入学資格審査を申請してください。審査の結果、資格を認定された場合のみ出願が認められます。

なお、出願資格1.~7.により出願を希望する者は、入学資格審査を申請する必要はありません。

1. 入学資格認定の申請対象者

出願資格8. として申請可能な者は、学校教育法施行規則第150条第7号に該当する者で、外国人を対象に教育を行うことを目的として我が国に設置された教育施設において高等学校に対応する3年に相当する学習歴を有する又は有する見込みのものです。ただし、平成29年度大学入試センター試験を受験した者に限ります。

2. 申請書類

- ① 入学資格認定申請書（本学所定の様式）
- ② 出身教育施設の修了（又は修了見込み）証明書
- ③ 出身教育施設の規則等
- ④ 出身教育施設のカリキュラム（修業年限、授業時間数、授業科目、必要単位数等が明記されたもの）
- ⑤ 返信用封筒〔長形3号封筒に申請者の住所・氏名を明記して、792円分（書留速達料金）の切手貼付。〕

3. 申請受理期間

平成29年1月16日（月）から1月18日（水）まで。

上記期間内に「書留速達郵便」にて「入学資格認定申請書類在中」と朱書き、郵送（期限内必着）してください。なお、提出された書類は一切返却しません。

4. 審査方法

申請者から提出された入学資格認定申請書及び出身教育施設の修了（又は修了見込み）証明書等に基づき審査します。

5. 認定基準

認定の基準は、専修学校高等課程の修了者に入学資格を認める基準を準用し、各教科の修得単位数等について、原則として次に掲げる条件を満たした教育を行う施設で当該教育を修了していること、又は修了する見込みであること。※単位については、1単位時間を50分とする。

- (1) 修了に必要な総単位時間数は、2,590単位時間以上とする。
- (2) 修了に必要な普通教科の総単位時間数は、420単位時間以上とする。
普通教科は国語（日本語）、地理歴史、公民、数学、理科、外国語とする。
- (3) 前項の教科以外の履修が、前項の教科と同様の成果が期待できる場合においては、その教科の履修をもって、前項の教科の一部又は全部に替えることができる。

6. 認定について

審査の結果、入学資格認定者には認定書を交付します。認定書を一度交付された場合、再度申請する必要はありません。

7. 提出先・照会先 ※ 申請予定者は申請前に必ず連絡してください。

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学教育推進・学生支援部入試企画課 TEL：075-753-2521

Ⅲ 入学者選抜方法等

提出書類、大学入試センター試験、及び小論文試験の成績を総合して合格者を決定します。
なお、大学入試センター試験の成績の複数年度利用は行いません。

1. 第1次選考

第1次選考は、大学入試センター試験及び調査書の成績により選考を行い、募集人員の15.0倍程度を目安として合格者を決定します。

【第1次選考合格者発表】

第1次選考結果の発表は、掲示にはよらず、次の方法により志願者に通知します。

①第1次選考合格者には第2次選考の受験票を送付します。不合格者には不合格通知書を送付します。

②第1次選考結果の通知は、2月28日(火)頃に法学部から発送の予定です。なお、3月6日(月)を過ぎても到着しないときは、法学部の教務担当(82ページ参照)へ問い合わせてください。

2. 第2次選考

(1) 入試方法

第1次選考に合格した者に対して、大学入試センター試験及び小論文試験の成績により選考を行います。

(2) 第2次選考の実施場所

第2次選考は、吉田キャンパス(京都市左京区)で行う予定です。(場所等は81ページ参照。)

第2次選考の実施場所、経路の詳細は、受験票発送時にお知らせします。

※ 本学では、志願者に対する宿泊施設等のあっせんは行っておりません。

なお、京都大学生活協同組合において宿泊案内を行っております。

ホームページ：<http://www.s-coop.net/>

(3) 第2次選考実施期日・時間

第2次選考実施期日・時間は、次ページのとおりです。追試験は実施しません。

(4) 入学者選抜の実施教科・科目等

入学者選抜の実施教科・科目等は、54ページのとおりです。

なお、大学入試センター試験の教科・科目名は、以下のように略しています。

国語→国、地理歴史→地歴、世界史B→世B、日本史B→日B、「倫理、政治・経済」→「倫、政経」、 数学→数、数学Ⅰ→数Ⅰ、数学Ⅱ→数Ⅱ、数学Ⅲ→数Ⅲ、数学A→数A、数学B→数B、 理科→理、物理基礎→物基、化学基礎→化基、生物基礎→生基、地学基礎→地基、 外国語→外、英語→英、ドイツ語→独、フランス語→仏、中国語→中、韓国語→韓

個別学力検査等実施期日・時間

学 部		2月25日(土)		2月26日(日)				2月27日(月)		3月13日(月)	
		教科等	時間	教科等	時間	教科等	時間	教科等	時間	教科等	時間
総合人間 学 部	文系	国 語	9時30分 ～ 11時30分	数 学	13時30分 ～ 15時30分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	地理歴史	13時30分 ～ 15時00分		
	理系	国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	理 科	13時30分 ～ 16時30分		
文 学 部		国 語	9時30分 ～ 11時30分	数 学	13時30分 ～ 15時30分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	地理歴史	13時30分 ～ 15時00分		
教育学部	文系	国 語	9時30分 ～ 11時30分	数 学	13時30分 ～ 15時30分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	地理歴史	13時30分 ～ 15時00分		
	理系	国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	理 科 (1科目)	15時00分 ～ 16時30分		
法学部	前期	国 語	9時30分 ～ 11時30分	数 学	13時30分 ～ 15時30分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	地理歴史	13時30分 ～ 15時00分		
	後期										
経済学部	文系	国 語	9時30分 ～ 11時30分	数 学	13時30分 ～ 15時30分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	地理歴史	13時30分 ～ 15時00分		
	理系	国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語	9時30分 ～ 11時30分				
理 学 部		国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語 (英語のみ)	9時30分 ～ 11時30分	理 科	13時30分 ～ 16時30分		
医 学 部	医 学 科	国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	理 科	13時30分 ～ 16時30分		
	人 間 健 康 科	国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語 (英語のみ)	9時30分 ～ 11時30分	理 科	13時30分 ～ 16時30分		
薬 学 部		国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語 (英語のみ)	9時30分 ～ 11時30分	理 科	13時30分 ～ 16時30分		
工 学 部		国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語 (英語のみ)	9時30分 ～ 11時30分	理 科	13時30分 ～ 16時30分		
農 学 部		国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	理 科	13時30分 ～ 16時30分		

【法学部 特色入試】（後期日程）

◆求める人物像

法学部は、世界・国家・社会の様々な問題に対する強い関心を持ち、多方面にわたる基礎的な学力を備え、論理的思考力に優れた人材を求めています。

◇募集人員20人

募集区分	大学入試センター試験の利用教科・科目名		能力測定考査			大学入試センター試験・能力測定考査の配点等									
	教科	科目名等	教科	科目名等	第1次選考	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	配点合計	
後期（特色入試）	国	国語	その他	小論文	後期募集人員の約15.0倍	センター試験	(200)	(200)		(200)	(100)	(200)		270 (900)	
	地歴	世B, 日B, 地理B, } から2				能力測定考査							100	100	
	公民	「倫, 政経」 (※注1 1.参照)													
	数	「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」													
理	物基, 化基, } から2 生基, 地基 (※注1 2.参照)				計								370		
外	英, 独, 仏, 中, 韓 から1 〔5教科8科目〕または〔6教科8科目〕														

※合格者は、第1次選考に合格した者について、大学入試センター試験の成績（合計の900点満点を270点満点に換算）及び小論文試験の成績（100点満点）により決定します。

※別途公表している「特色入試学生募集要項」も併せて確認してください。

〔注1〕「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 「地理歴史, 公民」について、「世界史B」と「日本史B」のうちの少なくとも1科目が含まれるように、2科目を選択してください。
- 「理科」について、「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」（以下、「基礎を付した科目」という。）のうちから2科目を選択するかわりに、「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」のうちから2科目を選択することができます。その場合は、合計得点（200点満点）を「基礎を付した科目」の合計得点と同じ100点満点に換算します。
- 英語のリスニングの成績については、以下のとおり利用します。
英語 250点満点（筆記 200点満点, リスニング 50点満点）を第1次選考においては200点満点に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は、リスニングの得点を0点として取り扱います。
なお、ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語及びリスニング免除者は筆記 200点満点で第1次選考を行います。

(注2)「能力測定考査」について

1. 「小論文」について

小論文試験は、日本語と英語の文章を題材に、読解力、論理的思考力、表現力などについて評価します。

2. 第1次選考について

第1次選考は、大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計、調査書の成績により選考を行い、募集人員の15.0倍程度を目安として合格者を決定します。

IV 出 願 手 続

出願手続は、出願期間内に「インターネット出願システムでの出願登録」「入学検定料納入」「必要書類の郵送」をすることにより完了します。不備のないよう注意してください。

1. 出願手順

(1) 事前準備

① インターネットに接続されたパソコン等の準備

ご家庭にない場合は、学校や図書館など自宅外のパソコンからも出願できます。

② プリンタの準備

インターネット出願システムの出願登録完了画面からダウンロードできる宛名ラベルおよび志願票・写真票を印刷するために必要です。

③ 必要書類の準備（58ページ [3. 出願に要する書類等] 参照）

④ 角形2号（角2）封筒（240mm×332mm）の準備

出願に必要な書類を送付するため、市販の角形2号（角2）封筒を準備してください。

(2) インターネット出願システムに登録する

インターネット出願システムのページには、以下のURLからアクセスできます。

http://www.nyusi.gakusei.kyoto-u.ac.jp/tokushoku/web_application/

(3) 出願登録

画面の案内に従って、志望情報、志願者個人情報を入力します。

(4) 出願内容の確認

登録した内容を確認してください。内容に間違いがある場合は、「修正する」ボタンを押して修正してください。

(5) 入学検定料等納入方法の選択（決済情報入力）

画面の指示に従って、入学検定料等の納入方法を選択してください。納入方法として「クレジットカードで支払う」もしくは「コンビニ、金融機関ATM【Pay-easy】、ネットバンキングのいずれかで支払う」のどちらかを選択できます。

※出願登録の際に必要な料金は以下のとおりとなります。

① 入学検定料（17,000円）

② 受験票等送付料（370円）

③ 試験成績送付料（480円）※希望者のみ。詳細は60ページ参照。

以上①～③の料金の他に支払い手数料（500円）が必要となります。

※出願書類を受理した後は、57ページ[※検定料の返還について]のA、イに該当する場合を除き、いかなる理由があっても納入済みの入学検定料は返金しませんので注意してください。

※入学検定料納入後は、登録内容の変更ができませんので、注意してください。

(6) 宛名ラベルおよび志願票・写真票を印刷する

出願登録完了画面からダウンロードできる宛名ラベルおよび志願票・写真票を印刷してください。

(7) 必要書類の郵送

宛名ラベルを貼り付けた封筒に必要な書類を封入し、必ず、書留の速達便で郵送してください。

2. 入学検定料等の納入方法等

入学検定料等の支払いは、以下のいずれかの方法で行ってください。

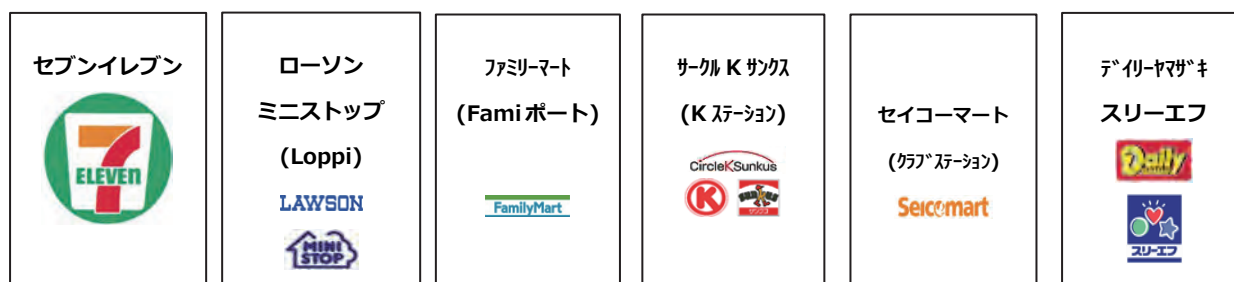
詳しい支払い方法については、出願をする際に、インターネット出願システム上の「入学検定料の支払方法について」の項目を確認してください。

①クレジットカード

クレジットカードに記載されている情報を入力しますので、出願前にクレジットカードを準備してください。支払い方法は一括払いのみです。クレジットカードの利用限度額を確認した上で利用してください。お支払いされるカードの名義人は、志願者本人でなくても構いません。

②コンビニエンスストア

現金での支払いとなります。以下のコンビニで支払いが可能です。



③金融機関 ATM 【Pay-easy】

金融機関で Pay-easy マークの付いている ATM で支払うことができます。支払い可能金融機関は下記ページの「ATM 利用可能一覧」を確認してください。

http://www.well-net.jp/multi/financial_list/index.html

④ネットバンキング

都市銀行、地方銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫、農協、漁協などのネットバンキングを利用することができます。事前に金融機関にて申し込みが必要です。

また、楽天銀行、ジャパンネット銀行、じぶん銀行、住信 SBI ネット銀行でも支払うことができます。事前に金融機関にて口座の開設が必要です。

※検定料の返還について

ア. 第 1 次選考不合格者及び出願無資格者

検定料の一部（13,000 円）を返還します。不合格通知書又は出願無資格通知書を送付する際に、返還手続方法について連絡します。

イ. 検定料を納入したが出願書類を提出しなかった場合および誤って二重に納入した場合

検定料の全額（17,000 円）を返還します。検定料の返還を希望する旨を明記のうえ、①志願者氏名 ②郵便番号 ③住所 ④電話番号 ⑤検定料の納入方法 ⑥納入した金融機関名及び支店名又はコンビニエンスストア名及び店名を、下記までファックスにてお知らせください。記載の住所へ返還手続書類を郵送しますので、それに従って手続をしてください。

ウ. 連絡先

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学教育推進・学生支援部入試企画課

TEL : 075-753-2521 FAX : 075-753-2565

平成23年3月に発生した東日本大震災、平成28年4月に発生した熊本地震による災害救助法適用地域において、主たる家計支持者が被災した者で、罹災証明書等を得ることができる場合は、入学検定料を免除することがあります。詳しくは、入試企画課（TEL：075-753-2521）へお問い合わせください。

3. 出願に要する書類等

市販の封筒（角2サイズ 240mm×332mm）の表面にインターネット出願システムの出願登録完了画面から印刷できる宛名ラベルを貼り付け、全ての必要書類を封入し郵送してください。

<p>① 志願票・写真票</p>	<p>インターネット出願システムの出願登録完了画面から印刷してください。なお、以下の点に留意して提出ください。</p> <p>【志願票】 必ず、所定の欄の枠内に大学入試センターから交付を受けた有効な「平成29センター試験成績請求票」「後国公立後期日程用」を貼り付けてください。</p> <p>【写真票】 上半身脱帽正面向きで出願前3か月以内に単身で撮影した写真1枚（縦4cm×横3cm）を枠内に貼り付けてください。 *おって、大学から送付する受験票に写真を貼付する必要があるため、あらかじめ同じ写真をもう1枚準備しておいてください。</p>
<p>② 調査書</p>	<p>文部科学省で定めた様式により、出身学校長が作成し、厳封したものの。</p> <p>また、全体の評定平均値に基づいて、学科・コースごとの志願者の学年における順位を備考欄に記載してください。 （出願者は必ず順位の記載があるか調査書作成者に確認してください。）</p> <p>順位の記載が無い場合は出身高校に再提出を依頼します。 *調査書が得られない場合は、以下に記載の【調査書に代えることができる書類について】を参照してください。</p>
<p>③ 入学資格認定書（写） （該当者のみ）</p>	<p>51ページの「Ⅱ 出願資格 8.」により、本学に入学資格認定の申請をし、認定を受けた者は、本学交付の入学資格認定書の写しを必ず提出してください。</p>

【調査書に代えることができる書類について】

- (1) 指導要録の保存期間が経過した者、廃校・被災その他の事情により調査書が得られない者は、「卒業証明書及び成績証明書」を提出してください。成績証明書等を提出できない場合は、「卒業証明書」に加えて学校長からの「発行できない旨の書面」を提出してください。
- (2) 高等学校卒業程度認定試験又は大学入学資格検定（大検）合格者は、「合格成績証明書」（合格証明書は不要）を提出してください。ただし、高等学校等において科目を履修したことにより受験科目を一部免除された場合は、免除された科目の高等学校等の調査書又は「成績証明書」を添えてください。
- (3) 上記（1）および（2）以外の者は、「修了証明書（資格証明書）及び成績証明書」を提出してください。

【注意事項】

- (1) 出願書類に記載事項の記入もれ、その他不備のある場合は受理しません。
- (2) 出願書類の受理後は、出願事項の変更を認めません。
- (3) 出願書類の受理後は、出願書類を返却しません。
- (4) 現在、大学等に在学している者は、受験に際して受験許可書や退学証明書は必要ありません。
ただし、本学に入学する際は、3月31日までに退学し、法学部教務掛（82ページ参照）に退学証明書を速やかに提出してください。

4. 出願期間および入学検定料納入期間

平成29年1月23日（月）から2月1日（水）午後5時（必着）まで

この期間中に、インターネット出願の登録と入学検定料の納入を済ませ、なおかつ出願書類が本学に到着していなければなりません。

※ただし、出願書類については1月28日（土）以前の発信局消印のある書留速達郵便に限り、期限後に到着した場合でも受理します。

5. 出願状況の情報提供

- (1) 各学部の出願状況について、下記の期間中本学ホームページ（<http://www.kyoto-u.ac.jp>）上に情報提供を行います。（平成29年1月23日（月）午後7時から）
- (2) 個別の出願書類の配達状況について、本学では対応いたしかねますので、日本郵便の追跡サービス（<http://www.post.japanpost.jp/index.html>）をご利用ください。

6. 受験票の送付

「受験票」及び「受験上の諸注意」等の発送は平成29年2月28日（火）頃を予定しています。なお、第1次選考不合格者には不合格通知書を、出願無資格者には出願無資格通知書を送付します。

3月6日（月）を過ぎても通知が届かない場合は法学部教務掛（82ページ参照）へ問い合わせてください。

V 入試情報開示

本学では、試験成績、調査票について受験者本人からの請求があれば、以下のとおり開示します。

個人情報保護の観点から、代理人による開示申請は、理由の如何を問わず受け付けません。

【試験成績】

平成29年度入試の試験成績の開示を希望する者は、インターネット出願システムで試験成績送付を申し込んでください。（送付料として480円が必要です。）平成29年5月上旬に書留郵便（親展）で送付します。

開示する試験成績は、大学入試センター試験と法学部における小論文試験の得点です。参考として満点、合格者の最高点、最低点及び平均点を記載しています。

また、第2次選考の受験者本人に限り、平成29年7月3日（月）から平成29年11月30日（木）の間に、法学部の教務担当事務室（場所は82ページ参照）において試験成績を開示します（第2次選考の受験票、または本人確認ができるものを持参してください。）。

※試験成績送付申し込み者のうち第1次選考不合格者及び出願無資格者に対しては、試験成績送付料（480円）を返還します。不合格通知書等を送付する際に、返還手続方法についてもあわせてお知らせします。

【調査書】

平成29年度入試の調査書の開示を希望する者は、平成29年7月3日（月）から平成29年11月30日（木）までの間に、法学部の教務担当事務室で申請してください。申請後1週間以内に調査書の閲覧が法学部の教務担当事務室で可能になります。申請・閲覧ともに第2次選考の受験者本人に限りますので、第2次選考の受験票、または本人確認ができるものを持参してください。

なお、開示する調査書の内容は、不開示情報（「指導上参考となる諸事項」及び「備考」欄）を除いた部分となります。

VI 障害等のある入学志願者との事前相談について

本学では、障害等があって受験上及び修学上の配慮を必要とする入学志願者のための相談を常時受け付けています。相談の内容によっては対応に時間を要することもありますので、下の様式を用いて、出願前の早い時期に、法学部の教務担当へ連絡してください。

特に下表に相当する障害がある入学志願者については、12月末までに連絡がない場合、受験上の配慮が講じられない場合もありますので十分注意してください。

なお、本学ではこれまでに受験に際して、拡大文字問題冊子の配付、別室試験室の設定、トイレに近い試験室の割り当て、注意事項等の文書による伝達、試験時間の延長などを実施しています。

区 分	障 害 の 程 度
視 覚 障 害	・両眼の視力がおおむね0.3未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの
聴 覚 障 害	・両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上のもので、補聴器等の使用によっても通常の話し声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
肢体不自由	・肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの ・肢体不自由の状態が上記に掲げる程度に達しないものうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病 弱	・慢性の呼吸器疾患、肝臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの ・身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの

[様式]

<p>(様式) A4判縦</p> <p style="text-align: right;">平成 年 月 日</p> <p>京都大学〇〇学部長 殿</p> <p style="text-align: center;">氏名(ふりがな)・生年月日 性別・住所・電話番号・高校名・メールアドレス等</p> <p>京都大学〇〇学部に入학을志願したいので、下記のとおり事前に相談を希望します。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 志望する学部・学科，受験科目 2. 障害等の種類，程度 3. 受験上希望する配慮事項 4. 修学上希望する配慮事項 5. その他 6. 添付書類 <ul style="list-style-type: none"> ・医師の診断書 ・大学入試センター試験受験上の配慮事項決定通知書(写)(大学入試センターに申請し通知書が手元にある者) ・身体障害者手帳(写)(交付を受けている者) ・その他相談する際に必要と思われる参考資料
--

※ 個人情報については、[独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律]及び[京都大学における個人情報の保護に関する規程]に基づいて取り扱います。

Ⅶ 受験に関する注意事項等

1. 受験に関する注意事項等は、第2次選考の前日午後、法学部において掲示しますので、必ず確認しておいてください。
2. 第2次選考前日及び当日の自動車、バイク等での試験場構内への乗入を禁止します。
3. 第2次選考当日は、**第2次選考の受験票及び大学入試センター試験の受験票を必ず持参してください。**（入学手続の際にも両方の受験票が必要になります。）
4. 第2次選考当日は、法学部の指示する時刻及び場所に集合してください。集合時刻・場所については、受験票送付時に別途通知します。
5. 試験開始時刻に遅れた場合は、試験開始後30分以内に限り入室を認めます。
6. 第2次選考において使用を認めるものは、黒鉛筆（シャープペンシルも可）・鉛筆削り（電動式・大型のもの・ナイフ類を除く）・消しゴムに限ります。※定規は使用できません。
健康上その他やむを得ない理由により、上記以外のものを使用したい場合は、監督者の指示に従ってください。
なお、時計（腕時計・置時計・スマートウォッチ等）は試験室に入る前にかばんに入れておいてください。各試験室に電波時計を設置していますので、試験時間の確認は可能です。
7. 携帯電話・スマートフォン・スマートウォッチ等の電子機器類は、試験室に入る前に必ずアラームの設定を解除し電源を切ってかばんに入れておいてください。試験時間中に身につけている場合、不正行為と見なすことがありますので注意してください。これらを時計として使用することはできません。
8. 試験時間中に監督者が写真票及び机上の受験票の写真と受験者の顔の確認を行います。マスクや眼鏡等について一時的に外すよう監督者が指示する場合がありますので、指示に従ってください。
9. 不正行為等（★「不正行為等の取り扱い」参照）の理由で退場を命じられた者は、受験資格を失います。
10. その他受験に関する問い合わせは、法学部の教務担当（82ページ参照）に照会してください。

詐欺まがいの行為に注意してください！

例年、試験場周辺において本学関係者を装うなどして、受験者に『合否連絡をする』、『緊急時に自宅に連絡する』などと言葉巧みに近寄り、受験番号・氏名・住所・電話番号などを記入させ、現金を要求する行為が発生しています。

本学関係者が受験者の個人情報を聞き出し、現金を要求することは一切ありません。

★ 不正行為等の取り扱い

- ① 次の不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退場を命じられ〔不正行為失格〕となります。〔不正行為失格〕が命じられた場合は、受験資格を失うこととなります。

ア. 受験票に本人以外の写真が貼ってあった場合や解答冊子に本人以外の名前や受験番号を記入した場合。
イ. カンニング（カンニングペーパー・教科書・辞書及び参考書類の使用，他の人から答えを教わることなど）を行うこと。
ウ. 他の受験者に答えを教えたり，解答冊子の交換等により，カンニングの手助けを行うこと。
エ. 試験時間中に，問題冊子・解答冊子・下書き用紙を試験室から持ち出すこと。
オ. 『解答を始めなさい。』の指示前に，問題冊子を開いたり，解答を始めること。
カ. 試験時間中に，スマートウォッチ等のウェアラブル端末・携帯電話・スマートフォン・電子辞書等の電子機器類を使用すること。
キ. 試験時間中に，定規・コンパス・電卓等の補助具を使用すること。
ク. 『解答をやめなさい。』の指示に従わず，解答を続けること。

- ② 上記①以外にも，次の行為を行うと不正行為となることがあり，場合によっては，文書により警告します。不正行為と見なされた場合の取り扱いは上記①の場合と同じです。

ア. 試験時間中に，時計（腕時計・置時計・スマートウォッチ等）・携帯電話・スマートフォン・電子辞書等の電子機器類や定規・コンパス・電卓等の補助具をかばん等にしまわず，机上に置いたり，身につけていたり，手に持っていること。
イ. 解答冊子の見せ合い，話し合い，のぞき見等の疑いのある行為を行うこと。
ウ. 試験時間中に，長い間，机の下に手を入れたり，服のポケット等に手を入れたりすること。

- ③ 次の行為を行うと試験妨害と見なされ，その場で試験の中止と退場を命じられ〔退場命令失格〕となります。〔退場命令失格〕が命じられた場合は，受験資格を失うこととなります。

ア. 監督者の指示に従わず，他の受験者に迷惑となる行為を繰り返すこと。
イ. その他，試験の公平な実施を損なうおそれのある行為をすること。

Ⅷ 合格者発表


合格者の発表は、次の日時・場所において、合格者の受験番号を掲示します。

発 表 日	時 間	場 所
平成29年3月23日（木）	正 午	法学部の掲示場
掲 示 期 間		
平成29年3月23日（木）正午～3月29日（水）午後5時		

※ 受験者への合否の通知等を行いません。また、電話等による合否に関する問い合わせには一切応じません。

◎ 京都大学入試情報ホームページにおける発表について

合格者受験番号を京都大学入試情報ホームページにおいて、合格者発表日の正午に掲載します。

携帯電話・パソコン 共通アドレス	
http://daigaku.jc.jp/kyoto-u/	
掲 載 期 間	
平成29年3月23日（木）正午～3月29日（水）午後5時	

Ⅸ 入学手続

入学手続は、「1. 入学手続に必要なもの」を期限までに、インターネット出願システムから印刷した入学手続書類送付用宛名ラベルを貼り付けた市販の封筒により書留速達で郵送してください。

所定の期限までに入学手続を行わない者は、入学辞退者として取り扱います。

1. 入学手続に必要なもの

(1) 入学料振込金受付証明書 <入学料 282,000円（予定）>

（注）受験票送付時に同封する「振込金受付証明書貼付台紙」に貼付すること。

(2) 大学入試センター試験受験票

(3) 本学受験票

(4) 学籍登録シート

（注）受験票送付時に同封する「学籍登録シート」に写真※を貼付し、氏名等の修正の有無を記入してください。

「大学入試センター試験受験票」記載の「氏名・フリガナ・生年月日」を学籍情報として登録し、学生証を作成しますので、氏名等を必ず確認し、その記載に間違い等がある場合は、それを訂正してください。訂正がない場合は、「訂正無し欄」にチェックを入れてください。

※ 写真について

- ・サイズは縦3cm×横2.4cm、脱帽正面向きで3か月以内に撮影したもの。光沢仕上げ（絹目仕上げは不可）。
- ・裏面に氏名、合格した学部名及び能力測定考査の受験番号を記入してください。
- ・写真は学生証に印刷され、在学期間中（4年間）使用しますので、高等学校等の制服着用のものは避けてください。写真を変更するために学生証を再作成する場合は有料となります。

【入学料等について】

ア. 入学料は、受験票郵送時に同封する本学所定の「振込依頼書」により、合格者発表後から入学
手続時までに金融機関（ゆうちょ銀行及び郵便局は除く）の窓口で納入してください。振込の際、
収納印の押された「振込金受付証明書」を受け取り、受験票送付時に同封する「振込金受付証明
書貼付台紙」に貼付し、郵送してください。

イ. 納入した入学料は、返還しません。ただし、所定の入学手続期間内に入学辞退を申し出た者に
ついてはこの限りではありません。

ウ. 授業料は、入学後に口座振替又は銀行振込により納入いただきます。

＜平成29年度前期分授業料 267,900円（予定）＞

（年額一括納入の場合 535,800円（予定））

※授業料は入学時及び在学中に改定されることがあります。

口座振替の申込方法

以下のいずれかによりお申し込みいただけます。

- ・インターネットによるお申込
- ・「預金口座振替依頼書」によるお申込

※申込方法の詳細は、入学案内等に同封する「口座振替による授業料の納入について」をご
覧ください。

銀行振込の納入方法

口座振替のお申込がない学生にのみ「振込依頼書」を4月20日頃にお送りいたしますので、
当該依頼書をご利用ください。

エ. 入学料免除及び入学料徴収猶予の申請を希望する者は、73ページ「Ⅲ. 修学案内」を参照し
てください。入学料を納入すると申請できませんので注意してください。

2. 入学手続方法

(1) 郵送締切日時

平成29年3月27日（月） 午後5時必着

ただし、上記締切日時までに手続ができない場合は、法学部の教務担当（82ページ参照）へ締切
日時までに連絡して、指示に従ってください。

(2) 郵送先・郵送方法

宛先は法学部の教務担当とし、64ページの「1. 入学手続に必要なもの」をすべて同封し、イン
ターネット出願システムから印刷した宛名ラベルを貼り付けた市販の封筒により、必ず書留速達とし
て郵送してください。

※ 配達状況については、日本郵便の追跡サービス (<http://www.post.japanpost.jp/index.html>)
を利用して確認することができます。

(3) 注意事項等

入学手続が完了後、「大学入試センター試験受験票」、「本学受験票」、「入学許可書」、「入学案内-授
業開始までの手続と行事-」等の書類をレターパックで、3月28日（火）までに発送します。3月
30日（木）を過ぎても書類が届かない場合は、法学部の教務担当（82ページ参照）へ問い合わせ
てください。

3. 入学辞退手続

合格者であって、本学への入学の意思がなく、入学を辞退しようとする者は、3月27日（月）午後
5時までに法学部の教務担当（82ページ参照）へ申し出るとともに、入学を辞退する旨を明記のうえ、
①合格者氏名 ②受験番号 ③郵便番号 ④住所 ⑤電話番号をファックスにてお知らせください。な
お、ファックス番号は申し出の際にお知らせします。

入学を辞退した者は、本学への入学手続を行うことはできません。

4. 入学手続上の諸注意

本学を含め1つの国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学を除く。）に入学手続を完了した者は、本学で入学手続を行うことはできません。

また、本学に入学手続を完了した者は、これを取り消して他の国公立大学（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学を除く。）に入学手続することはできません。

※ 公立大学協会ホームページ (<http://www.kodaikyo.org>) 参照のこと。

X 追加合格

追加合格を行う場合は、追加合格候補者に対し、3月28日（火）から3月31日（金）までの間に、法学部から志願票に記載の連絡場所へ通知します。

ただし、本学から追加合格候補者として通知を受けた者であっても、既に他の国公立大学（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学を除く。）で入学手続を完了した者は、本学で入学手続を行うことはできません。

なお、追加合格者の入学手続は、次のとおり行います。

1. 入学手続日 法学部から指示します。
2. 入学手続場所 法学部の事務室
3. 入学手続に必要なもの 「IX 入学手続 1. 入学手続に必要なもの」と同様です。

入学金・授業料免除及び入学金徴収猶予の申請を希望する者は、入学手続の際にその旨伝えてください。

XI 個人情報の取り扱いについて

個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「京都大学における個人情報の保護に関する規程」に基づいて取り扱います。

1. 入学者選抜を通じて取得した氏名、住所、その他の個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格者発表、③入学手続業務を行うために利用します。
2. 入学者選抜に用いた試験成績は、今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用します。
3. 上記1. 及び2. の各種業務での利用にあたっては、一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下、「受託業者」という。）において行うことがあります。

したがって、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、個人情報の全部又は一部を提供します。

4. 国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うため、氏名、受験番号、大学入試センターの受験番号、合否及び入学手続に関する個人情報を、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送付いたします。
5. 入学者選抜を通じて取得した個人情報は、入学者のみ①教務関係（学籍管理、修学指導、教育課程の改善等）、②学生支援関係（健康管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請等）、③授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

3. 一般項目

I 京都大学の教養・共通教育について

京都大学の教育体系は、教養・共通教育と専門教育（※）により構成されています。専門教育はそれぞれの学部で実施されます。これに対して教養・共通教育は全学部の学生を対象に国際高等教育院が実施しています。

本学の教育として教養・共通教育を行っている目的は、第一に自分の選んだ専門分野以外の学問に触れ、多様な問題関心や学問的方法論を理解することであり、第二に専門教育の課程で必要とされる基礎的な学力や知識・技能を習得することが挙げられます。また、国際化した社会において学問研究に従事し、あるいは、社会の様々な分野で活躍するために、第三の目的として、しっかりとした国際的視点とともに、十分なコミュニケーション能力を身につけることが挙げられます。特に英語学習については、国際高等教育院附属国際学術言語教育センター（i-ARRC）の教員がサポートしています。

どの学部に入学した場合も、教養・共通教育として「全学共通科目」の履修が求められます。専門教育の前に、もしくは専門教育と並行しながら、まず「全学共通科目」を学ぶこととなります。

全学共通科目の詳細については、国際高等教育院ホームページ（<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/zenkyo/purpose>）をご覧ください。

なお、国際高等教育院では、自らの英語能力に関して自覚を促すために、学部新入生を対象として、英語能力試験（TOEFL ITP）を実施します。外国語として英語を選択した新入生は、1回生の間に2回、TOEFL ITP 試験を受験することとなります。2回目の試験の成績は、1回生後期に配当される科目「英語ライティングーリスニングB」の成績評価の一部としても利用します。

また、国際高等教育院では、さまざまな科目でコンピュータの活用を求めていることや、Web を用いたオンラインシステムの利用が手続き等で必要なことから、入学者に対して、学習用ノートパソコンの保有を推奨します。それに際して、大学での学習に適したノートパソコンの仕様も示しています。

※ 専門教育とは、各分野の専門的知識や学問の方法を身につけることを目的として各学部が実施するものであり、その教育課程は、各学部の理念と教育方針に基づき決定されています。

Ⅱ 過去3年間の入学試験結果の概要

※入学試験結果の詳細については、京都大学ホームページ（<http://www.kyoto-u.ac.jp/>）を参照してください。

「ホーム」>「入試・高大連携」>「一般入試」>「入学者選抜実施状況」

平成28年度

			募集人員	受入予定数 (目安)	志願者数	第1段階選抜 合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
総合人間 学 部	前期	文系	115		518	404	398	119	0	0	119
		理系	62		283	217	215	65	0	0	65
			53		235	187	183	54	0	0	54
文学部	前期		213		614	614	600	216	0	0	216
教育学部	前期	文系	55		183	183	178	57	0	0	57
		理系	45		144	144	142	47	0	0	47
			10		39	39	36	10	0	0	10
法学部	前期		300		821	821	805	312	0	0	312
経済学部	前期	文系	205		610	610	592	215	0	0	215
		理系	180		478	478	464	190	0	0	190
			25		132	132	128	25	0	0	25
理学部	前期		306		845	832	829	310	0	0	310
医学部	前期		244		621	605	590	260	9	2	253
		医学科	106		330	314	311	112	1	0	111
		人間健康科学科	138		291	291	279	148	8	2	142
		看護学専攻	69		137	137	134	73	6	2	69
		検査技術科学専攻	37		87	87	85	39	0	0	39
		理学療法学専攻	16		41	41	37	18	0	0	18
		作業療法学専攻	16		26	26	23	18	2	0	16
薬学部	前期		80		218	218	208	84	0	0	84
		薬科学科	50		132	132	129	53	0	0	53
		薬学科	30		86	86	79	31	0	0	31
工学部 ※1	前期		951		2,732	2,731	2,688	945	4	0	941
		地球工学科		185	342	342	—	173	1	0	172※2
		建築学科		80	312	312	—	81	0	0	81
		物理工学科		235	822	822	—	236	1	0	235
		電気電子工学科		127	359	359	—	128	1	0	127
		情報学科		89	339	339	—	90	0	0	90
		工業化学科		235	558	557	—	237	1	0	236
農学部	前期		297		867	867	858	310	0	0	310
		資源生物科学科		94	-	-	—	96	0	0	96
		応用生命科学科		47	-	-	—	49	0	0	49
		地域環境工学科		37	-	-	—	40	0	0	40
		食料・環境経済学科		29	-	-	—	31	0	0	31
		森林科学科		57	-	-	—	59	0	0	59
		食品生物科学科		33	-	-	—	35	0	0	35
計		2,766		8,029	7,885	7,746	2,828	13	2	2,817	

※1 工学部の学科別志願者数および第1段階選抜合格者数は、第1志望学科の数を示す。

※2 工学部地球工学科の入学者は、外国人留学生を対象とした国際コースの入学者13人を除く。

〔外国学校出身者のための選考の実施結果（外数）〕

学 部	募集人員	志願者数	第一次選考 合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	入学者数
法 学 部	10人以内	21	17	8	4	0	4
経済学部	10人以内	22	16	5	5	0	5

※ 受験者数は最終教科時における数字である。

平成27年度

			募集人員	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
総合人間学 部	前期	文系	120	412	411	401	124	0	0	124
		理系	65	231	230	226	67	0	0	67
			55	181	181	175	57	0	0	57
文学部	前期		220	617	616	608	223	0	0	223
教育学部	前期	文系	60	195	195	195	62	0	0	62
		理系	50	148	148	148	52	0	0	52
			10	47	47	47	10	0	0	10
法学部	前期		320	746	746	736	331	1	0	330
経済学部	前期	一般	230	649	617	612	240	0	0	240
		論文	180	424	423	420	190	0	0	190
		理系	25	100	88	86	25	0	0	25
			25	125	106	106	25	0	0	25
理学部	前期		311	861	852	850	319	1	0	318
医学部	前期	医学科	250	677	661	650	264	6	0	258
		人間健康科学科	107	328	314	311	111	0	0	111
		看護学専攻	143	349	347	339	153	6	0	147
		検査技術科学専攻	70	167	165	159	74	4	0	70
		理学療法専攻	37	104	104	103	40	0	0	40
		作業療法専攻	18	39	39	39	19	0	0	19
			18	39	39	38	20	2	0	18
薬学部	前期	薬科学科	80	201	201	196	84	1	0	83
		薬学科	50	111	111	110	53	0	0	53
			30	90	90	86	31	1	0	30
工学部 ※1	前期	地球工学科	955	2,760	2,759	2,719	947	1	0	946
		建築学科	185	409	409	—	172	0	0	172※2
		物理工学科	80	276	276	—	81	1	0	80
		電気電子工学科	235	796	795	—	236	0	0	236
		情報学科	130	377	377	—	131	0	0	131
		工業化学科	90	321	321	—	91	0	0	91
			235	581	581	—	236	0	0	236
農学部	前期	資源生物科学科	300	923	922	912	313	0	0	313
		応用生命科学科	94	-	-	—	96	0	0	96
		地域環境工学科	47	-	-	—	49	0	0	49
		食料・環境経済学科	37	-	-	—	40	0	0	40
		森林科学科	32	-	-	—	34	0	0	34
		食品生物科学科	57	-	-	—	59	0	0	59
			33	-	-	—	35	0	0	35
計		2,846	8,041	7,980	7,879	2,907	10	0	2,897	

※1 工学部の学科別志願者数および第1段階選抜合格者数は、第1志望学科の数を示す。

※2 工学部地球工学科の入学者は、外国人留学生を対象とした国際コースの入学者14人を除く。

〔外国学校出身者のための選考の実施結果（外数）〕

学 部	募集人員	志願者数	第一次選考合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	入学者数
法 学 部	10人以内	22	19	14	5	0	5
経済学部	10人以内	32	11	10	6	4	2

※ 受験者数は最終教科時における数字である。

平成26年度

			募集人員	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
総合人間学 学部	前期	文系	120	454	400	394	124	0	0	124
		理系	65	207	207	202	67	0	0	67
			55	247	193	192	57	0	0	57
文学部	前期		220	647	647	639	227	1	0	226
教育学部	前期	文系	60	203	203	200	62	0	0	62
		理系	50	159	159	157	50	0	0	50
			10	44	44	43	12	0	0	12
法学部	前期		320	857	856	842	332	1	0	331
経済学部	前期	一般	230	719	680	667	240	2	0	238
		論文	180	485	484	474	190	1	0	189
		理系	25	106	88	88	25	0	0	25
			25	128	108	105	25	1	0	24
理学部	前期		311	805	795	793	315	0	0	315
医学部	前期	医学科	250	673	658	647	269	5	0	264
		人間健康科学科	107	326	311	309	112	1	0	111
		看護学専攻	143	347	347	338	157	4	0	153
		検査技術科学専攻	70	159	159	155	74	3	0	71
		理学療法専攻	37	99	99	96	41	1	0	40
		作業療法専攻	18	39	39	38	20	0	0	20
			18	50	50	49	22	0	0	22
薬学部	前期	薬科学科	80	232	231	224	82	0	0	82
		薬学科	50	123	122	119	51	0	0	51
			30	109	109	105	31	0	0	31
工学部 ※1	前期	地球工学科	955	2,867	2,866	2,835	970	1	0	969
		建築学科	185	379	379	—	185	1	0	184※2
		物理工学科	80	318	318	—	82	0	0	82
		電気電子工学科	235	777	777	—	238	0	0	238
		情報学科	130	407	407	—	133	0	0	133
		工業化学科	90	341	340	—	92	0	0	92
			235	645	645	—	240	0	0	240
農学部	前期	資源生物科学科	300	898	896	884	314	0	0	314
		応用生命科学科	94	—	—	—	96	0	0	96
		地域環境工学科	47	—	—	—	49	0	0	49
		食料・環境経済学科	37	—	—	—	40	0	0	40
		森林科学科	32	—	—	—	34	0	0	34
		食品生物科学科	57	—	—	—	59	0	0	59
			33	—	—	—	36	0	0	36
計		2,846	8,355	8,232	8,125	2,935	10	0	2,925	

※1 工学部の学科別志願者数および第1段階選抜合格者数は、第1志望学科の数を示す。

※2 工学部地球工学科の入学者には、外国人留学生を対象とした国際コースの入学者4人を除く。

〔外国学校出身者のための選考の実施結果（外数）〕

学部	募集人員	志願者数	第一次選考合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	入学者数
法学部	10人以内	27	17	11	5	1	4
経済学部	10人以内	27	15	15	7	4	3

※ 受験者数は最終教科時における数字である。

Ⅲ 修学案内

学生生活に必要な制度、施設等についての概要は、次のとおりです。

1. 入学料免除

入学料の納付が困難な学生に対して、(1) 出願資格のいずれかに該当する場合は、選考のうえ、入学料の全額または半額を免除する制度があります。

入学料免除希望者は、次の(1)～(3)に留意のうえ、手続きをしてください。

(1) 出願資格

下記の①又は②に該当する場合に対象となります。

- ① 平成28年4月から平成29年3月までの間に、出願者の学資を主として負担している者が死亡し、又は本人もしくは本人の学資を主として負担している者が風水害等（地震、台風を含む）の災害を受けたこと等により、入学料の納付が著しく困難と認められる者
- ② ①に準ずる場合であって総長が相当と認める事由がある者

(2) 出願手続

入学手続時に「入学料免除・徴収猶予一時申請願」を提出してください。詳しくは、京都大学ホームページの入学料免除 (<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/tuition/nyugaku>) によりご確認ください（ホームページへの掲載は、1月下旬予定）。

(3) その他

- ア. 入学料免除を出願した者で、入学手続期間以外に入学を辞退した場合は、速やかに入学料を納付してください。
- イ. 入学料免除を出願した者は、選考結果が決定（7月下旬予定）するまで、入学料の納付を猶予します。（入学料を納付すると免除の対象としないので、注意してください。）
- ウ. 選考の結果、不許可又は半額免除の決定がなされた場合は、その決定後、大学から改めて指示する期限までに入学料を納付しなければ、学生の身分を失います。

2. 入学料徴収猶予

入学料を納付期限までに納付することが困難な学生に対して、(1) 出願資格のいずれかに該当する場合は、選考のうえ、入学料の徴収を猶予する制度があります。

入学料徴収猶予希望者は、次の(1)～(3)に留意のうえ、手続きをしてください。

(1) 出願資格

下記の①、②又は③に該当する場合に対象となります。

- ① 経済的理由によって入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀（学部1年次は、入学試験の合格をもって適格とみなします）と認められる者
- ② 平成28年4月から平成29年3月までの間に、出願者の学資を主として負担している者が

死亡し、又は本人もしくは本人の学資を主として負担している者が風水害等（地震、台風を含む）の災害を受けたこと等により、入学料の納付が著しく困難と認められる者

③ ②に準ずる場合であって総長が相当と認める事由がある者

（２）出願手続

入学手続時に「入学料免除・徴収猶予一時申請願」を提出してください。詳しくは、京都大学ホームページの入学料免除（<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/tuition/nyugaku>）によりご確認ください（ホームページへの掲載は、1月下旬予定）。

（３）その他

ア. 入学料徴収猶予を出願した者で、入学手続期間以外に入学を辞退した場合は、速やかに入学料を納付してください。

イ. 入学料徴収猶予を出願した者は、選考結果が決定（7月下旬予定）するまで、入学料の納付を猶予します。（入学料を納付すると徴収猶予の対象としないので、注意してください。）

ウ. 選考の結果、許可又は不許可の決定がなされた場合は、その決定後、大学から改めて指示する期限までに入学料を納付しなければ、学生の身分を失います。

3. 授業料免除

授業料の納付が困難な学生に対して、（１）出願資格のいずれかに該当する場合は、選考のうえ、授業料の全額または半額を免除する制度があります。

授業料免除希望者は、次の（１）～（３）に留意のうえ、手続きをしてください。

（１）出願資格

下記の①、②又は③に該当する場合に対象となります。

① 経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者

② 平成28年4月から平成29年3月までの間（前期授業料の場合）に、出願者の学資を主として負担している者が死亡し、又は本人もしくは本人の学資を主として負担している者が風水害等（地震、台風を含む）の災害を受けたこと等により、授業料の納付が著しく困難と認められる者

③ ②に準ずる場合であって総長が相当と認める事由がある者

（２）出願手続

京都大学ホームページの授業料免除（<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/tuition/jumen>）によりご確認ください（ホームページへの掲載は、1月下旬予定）。

（３）その他

ア. 授業料免除を出願した者は、選考結果が決定（7月下旬予定）するまで、授業料の納付を猶予します。（授業料を納付すると免除の対象としないので、注意してください。）

イ. 選考の結果、不許可又は半額免除の決定がなされた場合は、その決定後、大学から改めて指示する期限までに授業料を納付してください。

4. 奨学金

学業が優れ、かつ、健康であって、経済的に困窮し、修学に支障を来す者については、選考のうえ、奨学金を貸与又は給与する制度があります。

(1) 日本学生支援機構奨学金

奨学金の種類と貸与月額、は、次のとおりです。（平成28年4月現在）

- 大学第一種奨学生（無利子）

自宅通学 45,000円 又は 30,000円

自宅外通学 51,000円 又は 30,000円

- 大学第二種奨学生（有利子）

30,000円, 50,000円, 80,000円, 100,000円, 120,000円

（本人の希望する貸与月額を選択）

◇入学時特別増額貸与奨学金制度

大学の第1学年において希望により、基本月額に10万円～50万円を増額して貸与されます。この制度は、一定の収入金額以下の者、又は、国の教育貸付け〔株式会社日本政策金融公庫（旧国民生活金融公庫）の教育ローン〕を申し込んで、貸付を受けることができなかった者が申し込めます。

ア. 申込説明会

日本学生支援機構奨学金を希望する者は、入学後、申込説明会を開催しますので、必ず出席してください。詳細については、「入学案内-授業開始までの手続と行事-」により通知します。

なお、入学の前年度に採用候補者に内定している者は、次の「イ. 進学届の提出」を参照してください。

イ. 進学届の提出

入学の前年度に日本学生支援機構奨学生の採用候補者に内定している者は、あらかじめ日本学生支援機構から交付されている「個人別パスワード」及び本学が交付する「学校別パスワード」を使用してインターネットから直接届け出てください。なお、「学校別パスワード」の交付等については、「入学案内-授業開始までの手続と行事-」により通知します。

(2) その他の奨学金

日本学生支援機構奨学金のほか、教育推進・学生支援部学生課奨学掛で取り扱っている奨学金は、地方公共団体、民間育英団体合わせて約90団体あります。詳細については、「入学案内-授業開始までの手続と行事-」により通知します。

(3) その他

京都大学基金緊急支援一時金として、学資を主として負担する方（学資負担者）が亡くなられた場合、並びに学生や学資負担者が災害（風水害、地震または火災）により被災した場合に、当該事由が発生した日から3ヶ月以内の申請により、緊急的に一時金を給付し、修学・生活を支援する制

度があります。

詳しくは、京都大学ホームページの「その他の奨学金 緊急支援一時金」をご覧ください。

5. 学生保険

学生保険として、学生教育研究災害傷害保険（学研災）は、正課や学校行事中、課外活動中、これらに伴う通学中等の事故により、学生が被った傷害に対して適用される保険であり、学生生活を送るうえで重要な役割を果たします。また、学生教育研究災害傷害保険（学研災）の付帯保険として、上記活動中（一部除く）に学生が法律上の損害賠償責任を負うことで被る、対人・対物の損害を対象とした学研災付帯賠償責任保険（付帯賠償）があります。

また、日常生活全般での損害賠償責任をカバーする大学生協が扱う学生賠償責任保険（学賠）があります。

なお、本学では入学の際、原則として、日本人学生は学研災・付帯賠償に、留学生は学研災・学賠に全員が加入することとなっています。

詳細については下記ホームページに掲載しています。

【本学ホームページ】

(<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/campus/health/saigai.html>)

【大学生協ホームページ】

(<http://hoken.univcoop.or.jp/student/>)・・・和文

(http://www.univcoop.or.jp/en/pdf/student_mutual_benefit.pdf)・・・英文

6. 学生寄宿舍

京都大学の学生寄宿舍は、吉田寮、熊野寮、女子寮の3つの寮です。詳しくは大学ホームページをご覧ください。以下の担当部署へお問い合わせください。

※京都大学ホームページ

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/campus/habitation/dormitory.html>

※教育推進・学生支援部厚生課厚生掛

TEL：075-753-2540

7. 下宿・アパート等

京都大学生生活協同組合 (<http://www.s-coop.net>, TEL：075-771-0823) で、アパート・マンション等の紹介をしています。

8. 福利厚生施設

本学の福利厚生施設は、各キャンパス（吉田、桂、宇治）にそれぞれ食堂や購買部を配置しています。

【本学ホームページ】

(<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/coop>)

9. 学生総合支援センター

本学は、学生の修学上、適応上の相談や苦情等に対応し、必要な支援を行うため、学生総合支援センターを置いています。センターには以下の3つのルームがあります。

(1) カウンセリングルーム

心理学を専門とするスタッフが学生生活上のさまざまな悩み（進路選択、学業、就職、人生観、対人関係、家庭、性、性格、吃音、心理障害、ハラスメント、その他）に関して、個人の秘密を厳守して相談に応じ、専門的助言と継続的援助を行っています。

(2) キャリアサポートルーム

学生の就職活動・キャリア形成を支援することを目的として、就職活動に役立つ各種資料・情報を提供するとともに、キャリア教育としての各種セミナーや講座、インターンシップや就職活動のためのガイダンス、合同企業説明会、公務員志望者のためのガイダンスや説明会などを開催しています。また、就職活動に関わる様々な問題や悩み事に窓口で対応するとともに、個別相談のための就職相談室を開設しています。

(3) 障害学生支援ルーム

障害があるなどの理由により、修学上何らかの支援が必要な学生の相談に応じ、所属学部や関連部局と連携しながら支援を実施します。支援の内容や方法は、個々の状況やニーズと授業内容等の環境的要因をふまえた専門的な判断により検討します。

10. 保健衛生

健康科学センター

学生の修学や生活を健康面から支援するため、種々の保健・医療サービスを提供しています。全学生が受診する定期健康診断、化学薬品や放射線を取り扱う場合の学生特別健康診断、就職や免許取得時に必要な各種の健康診断を実施するとともに、生活習慣病予防のための保健指導や感染症予防のための予防接種などを提供しています。また、心身の不調や不安をかかえる学生には診療や健康相談を行っています。本センターには医師や看護師が待機しており、気軽にかかれる保健・医療施設です。

11. 課外活動

本学における学生の課外活動は、相互研鑽のため学生自らが主体的に行うもので、先輩や部員間の深い絆を育み、自己の生き方を求めながら、自己の存在を確かめる場として人間形成の上で意義あるものです。学部在学生の多くが何らかの形で参加しています。全学公認学生団体は、文化系と体育系に区分され、本学創立まもなく誕生したものから最近結成したものまで、約200団体があります。文化系団体は音楽・ダンス系、芸術・古典系、人文・社会・自然系等に、体育系団体は体育会所属とそれ以外に分類されます。文化系各団体はそれぞれの設置目的に添って日頃の活動を行い、その成果を学内外に発表します。体育会所属運動部は、全国7大学総合体育大会や近畿地区国立大学体育大会のほか所属リーグ戦等に、体育会所属以外の体育系団体は所属リーグ戦等に参加し

ています。こうした日々の課外活動に参加することは、学生生活に張り潤いをもたらすこととなります。

また、毎年11月下旬に開催の11月祭（大学祭）は日常の活動を学内外に発表する場として、文化系・体育系を問わずさまざまなグループが参加する学生が自ら企画・実行する最大の祭典です。前夜祭に始まり、期間中は講演会、展示会、音楽会、演劇公演、模擬店などが開かれ、大学生活における楽しい思い出の一つとなる行事です。

【本学ホームページ】

(URL : <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/campus/activities/circle>)

12. 図書館

学内には附属図書館をはじめ、各学部などに設置された約50の図書館・室があり、図書館機構として、連携しながらサービスを行っています。

各図書館・室は、学問分野に応じた図書や雑誌を収集しており、国宝や重要文化財を含む全学の蔵書冊数は、約690万冊に上ります。また、図書館機構は、多くの電子ジャーナルや電子ブック、様々な分野のデータベースを学内ネットワーク上で提供しています。

各図書館・室には、快適な学習空間を備えており、学習・研究のシーンに合わせて利用することができます。例えば附属図書館には、多数の閲覧席のほか、グループワークが可能なラーニング・コモンズや共同研究室、静かに学習できるサイレント エリア、24時間利用できる学習室24、パソコンが利用できるオープンスペースラボラトリなどがあります。

また、各図書館・室では、図書館員が資料収集や調べものをサポートしたり、資料の探し方などの講習会を行ったりしているほか、附属図書館には、大学院生スタッフが相談に応える学習サポートデスクもあります。

さらに、図書館機構では、インターネットを通じて、蔵書検索システムのほか、論文などの京都大学の教育・研究成果や所蔵する貴重資料の画像などを広く公開しています。

各図書館・室の利用案内や図書館機構が提供する各種サービスへは、図書館機構ホームページ (URL : <http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/>) からアクセスすることができます。

13. オープンスペースラボラトリ (OSL)

自学自習用の情報環境として、学術情報メディアセンター南館・北館、附属図書館、吉田南総合図書館、桂キャンパス船井交流センターの学内5ヶ所にOSLを設置しています。

OSLには、セキュリティやプライバシー面で安心して利用できるように設計されたパーソナルコンピュータ(PC)やネットワークに接続されたプリンタが設置されており、電子メール、インターネットでの情報検索、プログラミングやデータ処理、レポートやプレゼンテーション資料の作成など自由に行えるようになっています。

また、OSLの各PC端末には英語、フランス語、ドイツ語、中国語等の自律学習用外国語教材がインストールされていますので、各自でヘッドフォンを持ち込むことで自学自習をすることができます。

学術情報メディアセンター南館のOSLには、大学院生がティーチング・アシスタント(TA)として勤務しており、気軽に質問等することができます。

14. 教育職員免許状について

本学で取得できる教員免許状は、高等学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状及び特別支援学校教諭一種免許状（聴覚障害者・知的障害者・肢体不自由者）です。

学部の教科に関する科目と併せて教職に関する科目を履修し、免許法所定の単位を修得した者は、高等学校・中学校教諭一種免許状授与の資格が得られます。

免許状の教科の種類は、次のとおりです。

国語、社会、地理歴史、公民、宗教、保健体育、数学、理科、英語、農業、工業、商業、水産、情報、ドイツ語、フランス語、中国語

なお、中学校免許を取得するには、「介護等体験」（特別支援学校で2日間、社会福祉施設等で5日間、計7日間）が義務付けられています。

また、中学校、高等学校の一種免許状を取得し、免許法に規定する特別支援教育に関する科目を修得すれば、特別支援学校教諭一種免許状（聴覚障害者・知的障害者・肢体不自由者）を取得することができます。

15. 卒業後の進路

平成28年3月卒業者の進路動向は下表のとおりです。卒業者の約60%が大学院に進学し、約30%が就職しています。

平成27年度 卒業者の進路状況

（平成28年5月1日現在）

進路 学部名	卒業生数		進学者数		就職者数		臨床研修医		その他	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
総合人間学部	91	41	35	14	45	26			11	1
文学部	106	105	43	25	47	74			16	6
教育学部	45	26	14	7	26	16			5	3
法学部	275	76	84	17	148	50			43	9
経済学部	205	52	18	3	176	46			11	3
理学部	275	35	234	26	26	7			15	2
医学部	124	133	24	25	14	84	78	22	8	2
薬学部	50	30	40	13	9	17			1	0
工学部	882	76	784	64	79	11			19	1
農学部	207	97	167	70	34	26			6	1
男計 女計	2,260	671	1,443	264	604	357	78	22	135	28
合計	2,931		1,707		961		100		163	
	100.00%		58.24%		32.79%		3.41%		5.56%	

平成27年度 卒業者の産業別就職状況

(平成28年5月1日現在)

産業	学部	総合人間		文		教育		法		経済		理		医		薬		工		農		男計	女計	総計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
農業・林業		1																				1	1		
漁業																									
鉱業・採石業・砂利採取業								1														1		1	
建設業			2		1	1		3		1	1	1						5	1			12	4	16	
製 造 業	食品・飲料・たばこ・飼料		1					1	2	2		1					1				3	4	7	11	
	繊維工業						1				1							1				1	2	3	
	印刷・同関連業				1					1												2		2	
	化学工業・石油・石炭製品	1	2		2			6	2	5	4			1	1	5	5	5	1	1	2	24	19	43	
	鉄鋼業・非鉄金属・金属製品	2	1	2	1			6		3	1							1	2			16	3	19	
	はん用・生産用・業務用機械器具	1	1		3	3		5	1	4		1	1					5	1	1		20	7	27	
	電子部品・デバイス・電子回路				1						1	1							2				4	1	5
	電気・情報通信機械器具	2		1	3		1	7	2	10	2	1							7	1	1	28	10	38	
	輸送用機械器具		1	1	1		1	3	1	5	1								4				13	5	18
	その他	1			1					3							1		2				6	2	8
電気・ガス・熱供給・水道業						1	4	1	2	3	1							1	1			9	5	14	
情報通信業		10	5	11	11	7	1	10	7	18	7	8	2	2	1			14	1	4	2	84	37	121	
運輸業・郵便業		1		5	2			14	4	10	1	2			1			4		1	1	37	9	46	
卸売業・ 小売業	卸売業	4		2	3	1	2	12	1	13		1		1	1		2	11		1	2	46	11	57	
	小売業		1	2	4					5		1				1						9	5	14	
金融業・ 保険業	金融業	10	3	3	13		1	39	7	54	15	5		2	4	1	1	5	2	5	3	124	49	173	
	保険業	1		2	3	4		4	4	7	1	2	1	1	1			2		1		24	10	34	
不動産業・ 物品賃貸業	不動産取引・賃貸・管理業	1	2	1	1		1	3	1	2				1					1	1		9	6	15	
	物品賃貸業							1														1		1	
学術研究・ 専門・技術 サービス業	学術・開発研究機関			1	1																1	2	1	3	
	法務	1				1	1	1	3	1												5	3	8	
	その他の専門・技術 サービス業	2	2	2	1	2	1	8	4	12	3		1					2		2		30	12	42	
宿泊業・飲食サービス業		1					1			1										1	1	3	2	5	
生活関連サービス業・娯楽業		1		2		1																4		4	
教育・学習 支援業	学校教育	1		4	6	4		1	3	1	1	1		1				1	1		2	14	13	27	
	その他の教育・学習支援業				1			1		2											1	4	1	5	
医療・福祉	医療業・保健衛生													22	64		7	1				23	71	94	
	社会保険・社会福祉 介護事業																								
複合サービス事業									1													1		1	
サービス業	宗教																								
	その他のサービス業	3	3	1	4		4	1	5	3	2			1	1	1			1	1	1	11	21	32	
公 務	国家公務	1		2	4	1	1	11	2	5		1								2	2	23	9	32	
	地方公務	1		2	7	2		5	2	2				8		1		4	2	6	5	22	25	47	
上 記 以 外			1	1	1			1	2					2				2		1	1	5	7	12	
総 合 計		71		121		42		198		222		33		116		26		90		60		621	358	979	
		45	26	47	74	26	16	148	50	176	46	26	7	31	85	9	17	79	11	34	26				

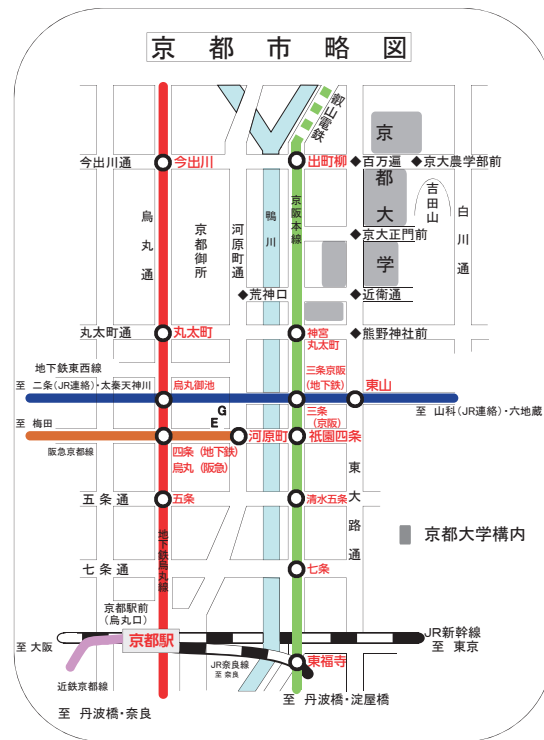
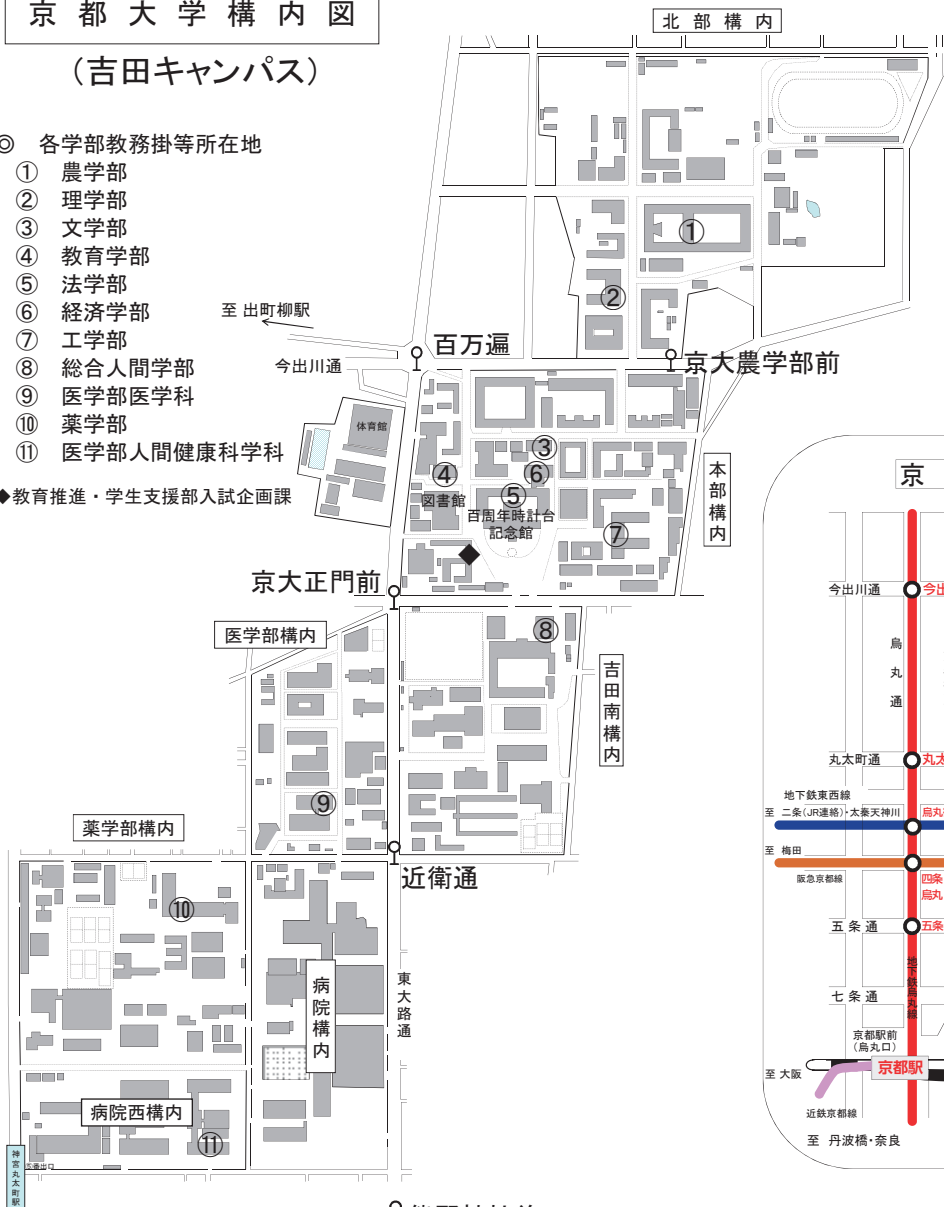
京都大学構内図

(吉田キャンパス)

◎ 各学部教務掛等所在地

- ① 農学部
- ② 理学部
- ③ 文学部
- ④ 教育学部
- ⑤ 法学部
- ⑥ 経済学部
- ⑦ 工学部
- ⑧ 総合人間学部
- ⑨ 医学部医学科
- ⑩ 薬学部
- ⑪ 医学部人間健康科学科

◆ 教育推進・学生支援部入試企画課



乗換(電車・バス・徒歩)等案内 熊野神社前

主要鉄道駅	乗車バス停	市バス系統	行先	下車バス停
京阪本線 出町柳駅	文・教育・法・経済・工は当駅下車、東へ徒歩約15分		総合人間・理・農は徒歩約20分	
京阪本線 神宮丸太町駅	医(医学科)・薬は当駅下車、北東へ徒歩約10分		医(人間健康科学科)は当駅下車、東へ徒歩約5分	
地下鉄東西線 三条京阪駅	地下鉄東西線「三条京阪駅」にて京阪本線「三条駅」に乗換可(地下連絡通路を通って徒歩約5分) ※京阪本線出町柳駅(三条駅から約3分、終点)または神宮丸太町駅下車後徒歩(上記参照)			
阪急京都線 河原町駅	阪急京都線「河原町駅」にて京阪本線「祇園四条駅」に乗換可(東改札口→出口1より四条大橋を渡り徒歩約5分) ※京阪本線出町柳駅(祇園四条駅から約5分、終点)または神宮丸太町駅下車後徒歩(上記参照)			
	四条河原町E	201系統 31系統	「祇園・百万遍」ゆき 「東山通 高野・岩倉」ゆき	「京大正門前」又は「百万遍」 医(医学科)・薬は「近衛通」 医(人間健康科学科)は「熊野神社前」
	四条河原町G	3系統 17系統	「百万遍 北白川仕伏町(上総町京都造形 芸大前)」ゆき 「河原町通 銀閣寺・錦林車庫」ゆき	「百万遍」 薬は「荒神口」 「百万遍」 理・農は「京大農学部前」 薬は「荒神口」
京都駅 (JR・近鉄)	JR奈良線「東福寺駅」(JR京都駅より約3分、全列車停車)にて、京阪本線への乗換可 ※京阪本線出町柳駅(東福寺から約12分、終点)または神宮丸太町駅下車後徒歩(上記参照)			
	京都駅前 (烏丸口)D2	206系統	「東山通 北大路バスターミナル」ゆき	「京大正門前」又は「百万遍」 医(医学科)・薬は「近衛通」 医(人間健康科学科)は「熊野神社前」
京都駅前 (烏丸口)A2	17系統	「河原町通 銀閣寺・錦林車庫」ゆき	「百万遍」 理・農は「京大農学部前」 薬は「荒神口」	

※ 京都駅前および四条河原町のバス停にはのりば表記を行っています。

京都大学ホームページ <http://www.kyoto-u.ac.jp/>

【 問 い 合 わ せ 先 】

各学部教務担当

学 部	担当掛	電話番号	住 所
総合人間学部	教 務 掛	075-753-7875	〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町
文 学 部	第一教務掛	075-753-2709	〒606-8501 京都市左京区吉田本町
教 育 学 部	教 務 掛	075-753-3010	
法 学 部	教 務 掛	075-753-3107	
経 済 学 部	教 務 掛	075-753-3406	
工 学 部	教 務 掛	075-753-5039	
医学部医学科	学部教務掛	075-753-4325	
医学部人間健康科学科	教 務 掛	075-753-9313	
薬 学 部	教 務 掛	075-753-4514	〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町
理 学 部	学部教務掛	075-753-3637	〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
農 学 部	学部教務掛	075-753-6012	

入学試験関係

担当部課掛	電話番号	住 所
教育推進・学生支援部入試企画課入試第一掛	075-753-2521	〒606-8501 京都市左京区吉田本町

入学料・授業料免除、奨学金関係

担当部課掛	電話番号	住 所
教育推進・学生支援部学生課奨学掛	075-753-2536	〒606-8501 京都市左京区吉田本町

学生寄宿舍関係

担当部課掛	電話番号	住 所
教育推進・学生支援部厚生課厚生掛	075-753-2540	〒606-8501 京都市左京区吉田本町



京都大学
KYOTO UNIVERSITY

Home page

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

Mobile

<http://daigaku.jc.jp/kyoto-u/>